

令和4年度(2022年度)
熊本市子どもの未来応援基金助成団体
活動報告書

目次

1. 熊本市こどもの未来応援基金について	
(1) 助成概要	1
(2) 基金への寄附について	2
(3) ご支援頂いた皆様	2
2. 活動報告	
(1) 広く全般に子育てや児童を支援する活動（スタートアップ枠）	
子育て支援サークル・くまもと	3
ユニバーサル親子柔道教室	6
(2) 広く全般に子育てや児童を支援する活動（企画枠）	
白川小学校親児の会	9
熊本食育の会	11
ひご Pecs サークル	13
植木寺子屋山東塾運営委員会	15
植木寺子屋 山本塾	17
NPO 法人せいしとらんし熊本	19
特定非営利活動法人教育支援プロジェクト・マスタース熊本	21
NPO 法人 ころろサポート熊本	23
NPO 法人コロボックル・プロジェクト	25
保育者の子育て塾	27
Office38 Wind Bell	29
たけみやいもほりファミリー会	31
プラダー・ウイリー症候群の子を持つ有志の会	33
子育てネットワーク「縁側 moyai」	35
NPO 法人子育て支援ワーカーズペペペペらん	37
ここサポ	38
学校法人熊本 YMCA 学園	40

(3) こども食堂に関する活動

桜木東食堂 陽だまり	42
どんぐりの森 夢食堂	44
子どもが生きられる世界	46
認定 NPO 法人 ポピンズくまもと	48
社会福祉法人百八会 シルバーピア東町デイサービスセンター	
地域交流スペース パティオ	50
きずな	52
NPO 法人くまもと相談所	54
Yell つながるカフェ	56
熊本市西区中島校区こども食堂まんまる	58
尾ノ上コミュニティ食堂「陽だまりの樹」	60
みんなの食堂	63
縁側サロン 竹ちゃんち	65
ouchi 食堂	69
楡木子ども地域食堂なごみ	72
NPO 法人熊本 YWCA	75

1. 熊本市こどもの未来応援基金について

「熊本市こどもの未来応援基金」を活用して、子育て支援活動をする個人や団体を支援しています。熊本市こどもの未来応援基金は、平成6年に熊本市エンゼル基金として、次の世代を担う子どもたちが、いきいきと、たくましく、健やかに育つ環境づくりに資することを目的に創設されました。

平成31年(2019年)4月から、子どもたちの未来の応援につながるものとして、「熊本市エンゼル基金」を「熊本市こどもの未来応援基金」へ名称を変更するとともに、新たに、こども食堂への支援を行うなど、助成対象を拡充しました。

(1) 助成概要

○広く全般に子育てや児童を支援する活動

対象事業	1 地域における子育て支援活動 2 児童の健全育成を目的とする活動 3 障がいを持つ児童を支援する活動 4 ひとり親家庭及び両親のいない児童を支援する活動 5 父親の子育て及び育児参加を推進する活動
助成要件	個人または団体の居所・本拠地が熊本市内であること
対象経費	報償費、需用費（食料費は除く）、燃料光熱費、役員費、使用料及び賃借料、備品購入費（上限総額2万円）
助成額	・スタートアップ枠：設立後3年目までの団体・個人 初年度5万円、次年度5万円 ・企画枠：特に効果的かつ先進的な取り組みで、他の模範となるような活動を行う団体 単年度上限10万円

○こども食堂に関する活動

対象事業	1 食事の提供を通し、全てのこどもが気軽に立ち寄れるこどもの居場所づくりを行う活動（開設・運営補助枠） 2 1のこどもの居場所づくりに加え、学習等様々な学びの支援を行う活動（拡充枠）
助成要件	1 熊本市内で開設しているもの又は開設するもの 2 開催時、常駐できる責任者を配置し、国等の通知に基づき安全面・衛生面について適切な配慮を行っていること 3 責任者とは別に、活動の補助等ができるスタッフを1名以上配置すること 4 3人以上で構成されていること 5 継続した運営をする意思及び能力を有すると認められること 6 こどもが広く参加できるように広報し、団体関係者等特定の者しか参加できない運営を行わないこと 7 定款・会則等を備えていること

対象経費	報償費、需用費（食料費含む）、燃料光熱費、役務費、使用料及び賃借料、備品購入費（運営補助枠は上限総額2万）
助成額	<ul style="list-style-type: none"> ・運営補助枠：年間の実施回数に応じて上限額を設定 年 4～12回 5万円 年 13～18回 7万円 年 19～24回 10万円 年 25回以上 15万円 ・開設枠：上限5万円（申請年度内に開始することが確定した団体に限る） ※1団体1回限り申請可 ※運営補助枠と併用可 ・拡充枠：上限5万円 ※1団体1回限り申請可 ※運営補助枠と併用可

(2) 基金への寄附について

次の①または②のどちらかの方法により、随時、寄附を募集しています。

①ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」・「楽天ふるさと納税」での申し込み

・「ふるさとチョイス」

<https://www.furusato-tax.jp/japan/prefecture/43100>



・「楽天ふるさと納税」

https://www.rakuten.ne.jp/gold/f431001-kumamoto/?s-id=furusato_pc_area-kumamoto_f431001-kumamoto



②こども政策課へ寄附採納願いを提出

下記の寄附採納願いをこども政策課へご提出ください。納付書を送付いたしますので、金融機関（ゆうちょ銀行を除く）にてお振込みをお願いいたします。

(3) ご支援頂いた皆様

○令和4年度

計7,486件、計112,610千円

地方卸売市場熊本東部青果株式会社、株式会社リアルト・ハーツ、三和リース株式会社、熊本学園大学附属高等学校（Next Nexus）、一般社団法人HANAKUMA、株式会社野口施工店、株式会社福德開発、株式会社七草堂、共立設計株式会社、堤化学株式会社、株式会社北電子、株式会社カリーノビジネスサポート、株式会社風雅、三友通商株式会社、熊本学園大学附属高等学校（NIGHT GARDEN）、個人

○令和3年度

計3,407件、計53,257千円

三和リース株式会社様、フジ化成株式会社様、株式会社松岡清掃公社様、有限会社矢野畜産様、有限会社福德開発様、株式会社七草堂様、明治安田生命保険相互会社様、株式会社レゴリスアーキテクト様、株式会社川崎ハウジング様、株式会社九州フラワーサービス様、有限会社幸鷹牧場様、鈴木電設株式会社様、有限会社三河屋スーパー様、学校法人湖東学園様、エース産業株式会社様、三共運送株式会社様、山崎菅原神社様、個人

○令和2年度

計614件、計14,141千円

大同リース株式会社様、有限会社福德開発様、株式会社七草堂様、熊本青果物出荷組合様、株式会社コスギ不動産様、パンタ・ロジスティクス株式会社様、山崎菅原神社様、個人

2. 活動報告

(1) 広く全般に子育てや児童を支援する活動（スタートアップ枠）

子育て支援サークル・くまもと

活動を始めるきっかけ/活動概要

「ペアレント・トレーニング」と「子どものタイプ別接し方講座」を使って、子どもとの好ましい関わり方を学ぶ講座を開催し、日常の子育ての困り事に活用することで不安が減り楽しく子育てができるように支援すると共に仲間づくりや、安心してお話ができる居場所作りを目的に活動を始めました。



重点的に取り組んだこと/成果

○子育て中のお母さんのみ参加する方は大江公民館で講座を月2回全12回実施

○子どもさん連れの方は中央公民館で講座を月2回全12回実施

○講座内容は、ペアレント・トレーニング7回、子どものタイプ別講座4回、茶話会1回

○子どもさんの事、家庭の事、ご自身の事個別相談実施

○成果（参加者の声）

- ・子どもに怒りながらも自分を責めていたけど、テクニックがある事を知って楽になった
 - ・他のお母さんの話を聞いて悩んでいるのは自分一人ではないと分かり心に余裕ができた
 - ・子どもを思い通りにしようと思っていたけど、子どもは子どもの考えや気持ちがあって、自分とは別の人格なんだと改めて思った
 - ・オムツがなかなか取れなかったが、接し方を変えたらトイレに行けるようになり、オムツが取れた
 - ・穏やかな気持ちで子育てする時間が増えた
 - ・子どもにガミガミ言う事が減った
 - ・親子の関係性が穏やかになった
 - ・私が色々言わなくても、子どもが自分で一つ一つ取り組むようになった
 - ・子どものタイプを知れた事で今まで理解できなかった子どもの言動が理解でき、具体的な接し方が分かった
 - ・この講座に参加する事でみなさんの話を聞いたり、話したりする事でストレスが減った
- 参加者が変わらず同じなので回数を重ねるごとに仲良くなれた



課題/解決に向けての取り組み

子どもさん連れの参加希望の方を受け容れる体制がととのって
いなかったため、少人数に制限しなければならなかったが、子
どもさん連れのお母さんがもっと参加できるよう今後考えてい
きたいです。



今後の展開

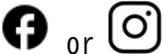
第1回2023年6月16日（金）～12月15日（金）

子育てサポートセミナー（「ペアレント・トレーニングと子どものタイプ別接し方講座」）
今回も全12回コースで実施します。子どもとの好ましい関わり方を学ぶと共に仲間づくりや、
安心してお話する居場所作りに取り組んでいきます。

連携団体

（株）メンタルサポート研究所
熊本市教育委員会（後援）

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		
perseus.992424@gmail.com	090-9490-2188 (担当者 藤吉)	

ユニバーサル親子柔道教室

活動を始めるきっかけ/活動概要

活動を始めるきっかけ

私は大人から柔道を始めました。子どもが3人います。2番目の子どもと一緒に柔道を始めました。練習を始めたばかりの頃は、体力、筋力もありませんでした。後転も出来ませんでした。腕立ても1回程度でした。昔は出来ていたのにと思いながら、少し恥ずかしく、出来ない自分にショックを感じました。でも、練習は楽しかったです。それは、一緒に練習する子どもたち、仲間、先生方との出会いがあったからです。柔道を通して、技だけでなく、「できない人の気持ち」「出来るようになることのうれしさや楽しさ」「できないことも楽しんでいい」、いろんな気持ち（人の心）を学ぶことが出来ました。

柔道の創設者、嘉納治五郎師範の教えに「精力善用」「自他共栄」があります。「精力善用」：心と身体を持つすべての力をつかって、柔道だけでなく、社会のため、みんなのために使しましょう。「自他共栄」：思いやりの心、感謝の心、信頼し合う心、助け合う心をもって、自分一人だけでなく、みんなと共に栄える世の中をつくりましょう。この精神は、柔道においても、日常生活においても、ユニバーサルにつながると、私は捉えました。「運動が上手」、「運動が苦手」に関係なく、障がい、年齢、性別、発達段階的な課題関係なく、「柔道は楽しそうだな」、「柔道をやってみたいな」と思う人が誰でも始められる、柔道を楽しめる場所を作りたいとの思いから、【ユニバーサル親子柔道教室】を始めました。柔道の楽しみ方は、人の数だけいろいろあっていいと思います。

活動概要

令和4年度は前期・後期に分け、各学期5回で教室を開催しました。安全に転ぶことを中心に、柔道の動きを取り入れ、発達段階、障がいのある・なしに関係なく、年齢、性別に関係なく、初心者でも楽しく体を動かせるプログラムで構成しました。柔道着がなくても参加できます。熊本武道館の柔道場全面を使って、広々と楽しく活動しました。

～ご協力くださった先生方の紹介～

〈指導者〉馬場 孝夫 速水 頼子 山田 勝子 塚田 誠尚 福島 清文

〈心理カウンセラー・公認心理師〉西村 由美子

〈熊武会〉森田 由紀子 釘島 良蔵 田島 恒男 井上 眞照 田村 公寛 折尾 玲奈



重点的に取り組んだこと/成果

重点的に取り組んだこと

「ほめる」こと

成果

柔道には、日常生活であまり経験することのない動きがあります。ゼロから親子で取り組むことで、「できること」「できないこと」の経験を、親子で一緒に味わうことが出来ました。また、親子で普段あまり気づけない、「お互いの良いところ」に気付くことが出来ました。指導者は、「よくできたね」「すごいね」とたくさん声をかけることを心がけました。このことで、参加くださった親子が「お互いのよいところ」に気づきやすくなったのではないかと思います。おうちの方も、「出来たこと」「出来なくても挑戦したこと」に対して、「よくできたね」「すごいね」と子どもたちをほめていました。おうちの人が出来ない動きのときは、子どもたちがおうちの人をサポートする姿があり、親子で柔道を楽しく味わうことが出来ました。

柔道教室では、心理カウンセラーの先生のご協力をいただきました。柔道教室に、心理カウンセラーの先生が加わってくださることは少ないと思います。指導者の先生方は、柔道指導の経験、柔道歴だけを頼りにされることなく、心理カウンセラーの先生のアドバイスを指導に取り入れられていました。

課題/解決に向けての取り組み

課題

柔道は濃厚接触の競技の一つであるため、コロナ禍では敬遠される傾向にある。

解決に向けての取り組み

教室のプログラムは、知らない人同士ではなく、親子で実施しました。コロナ感染防止対策としてだけでなく、親子だからこそ、遠慮なく親子で触れ合えるよい機会になったと考えます。教室に関するアンケートでは、家族関係に良好な変化をもたらしたことが示されていました。

教室を通して、参加者同士（家族以外）の交流を深めたかったのですが、コロナ感染防止のために、家族以外の接触を避けるように配慮しました。今後は、コロナの状況をみながら、参加者全員（家族以外）で楽しめるプログラムを取り入れ交流を深めたいと考えます。

課題

子育てに関する悩み・相談や、柔道に関する相談を受ける。

解決に向けての取り組み

令和4年度の教室では、子育てに関する悩み・相談はありませんでした。柔道を始めてみたいという相談がありました。教室修了後も継続して柔道を続けられるように、少年柔道クラブ・教室をご案内することが出来ました。

今後の展開

今年度は、10回の教室を開催しました。運動の得意・不得意に関係なく、障がいのある・なしに関係なく、ひとり一人にやさしい柔道、楽しい柔道が出来る環境を作っていきたいと思います。いつでも通えるユニバーサルな柔道教室が設立できるように、今後も活動を続けていきたいと思っています。

連携団体

熊武会（フリーサークル）

問い合わせ

		 or 
ma.ma.ma.judo@gmail.com	(担当者氏名) おりおれな	

(2) 広く全般に子育てや児童を支援する活動（企画枠）

白川小学校親児の会

活動を始めるきっかけ/活動概要

本会では、学校やPTA、地域と連携しながら、子供たちが「楽しく遊べる」環境づくりやイベント等のバックアップ活動に取り組んできたが、ここ数年は、コロナ渦により計画していた活動内容の変更を余儀なくされていた。本年度も、7月末に「魚のつかみどり&学校プールでのゴムボートレース」を企画、学校や消防団等の協力も得て、開催を周知したが、コロナ第7波の感染拡大により、急遽、中止せざるをえない状況となった。

その後、コロナ感染の動向を注視しながら、子供たちが楽しめる代替イベントとして、11月初旬にスポーツゲームによる「プレイランド」を開催した。また学校内の空き地を利用して、サツマイモを栽培し、植え付けや収穫体験等の機会を設けた。さらに地域の消防団と協力して、学校内の樹木伐採を行い、子供たちが安心して活動できるよう環境整備を行った。

重点的に取り組んだこと/成果

活動の円滑化と会員の負担軽減を両立するために、ズームによる役員会議（三役及び学年幹事）を頻繁（4～11月末までに7回）に開催、取り決め事項等はラインを使うことで各会員と情報共有を行った。また体育館内でのプレイランド開催時には、スポーツゲームの場所ごとに消毒液を準備し、使用用具の消毒を徹底する等コロナ感染対策を徹底した。

プレイランド（児童参加：約120名）では、学校や消防団にも協力してもらいながら、体育館内に8種類のスポーツゲームを準備、ゲームごとに採点票を設けて、終了した児童にくじ引きにより景品を配布した。



プレイランドの状況(11/8)

サツマイモの栽培体験では、学校の下承を得て学校内の空き地を確保、畑として利用できるよう準備、苗植・収穫を体験してもらうとともに、今後、焼きいも大会等の実施を計画しているところである（12月末現在）。



サツマイモ苗の植え付け(5/21)と収穫(11/8)



樹木伐採作業(8/7)

学校内周辺部の樹木伐採では、児童だけでなく地域住民に安全面での影響が懸念される繁茂樹木の伐採作業を学校、消防団と協力して行った。

これらの活動を通じて、子どもたちが安全な環境の中で、体験しながら楽しめる場を提供するだけでなく、学校や地域との連携を強化することができた。さらにコロナの影響で関係性が薄れがちがちだった保護者相互の懇親を深めることができただけでなく、イベント運営を通じて、運営手順を継承できる担い手の確保に取り組んだ。

課題/解決に向けての取り組み

コロナによる地域イベントの中止が長期化し、地域や子供たち、保護者間での交流が希薄化し、イベント等の運営を支える担い手が少なくなっているだけでなく、手順そのものがわからない人が増えている。そこで今後は、保護者、学校や地域が情報共有しながら、主体的に運営に携わったり、学校や地域活動をバックアップできる体制づくりを進めて行く。

今後の展開

これまでの取り組みを通じて、事業実施のノウハウを得ることができたので、会員間や学校や地域とも情報を共有し、ノウハウを継承し、本年度実施できなかった参加型イベントの拡充にむけて取り組んでいきたい。

連携団体

白川小学校、白川校区消防団

問い合わせ

		 or 
Pw3snsd@gmail.com	090-5483-0136 (西田伸介)	

熊本食育の会「はなまるクッキング」

活動を始めるきっかけ/活動概要

スーパーに行けば、お菓子、お惣菜、加工食品、様々なものがあふれるほど並んでいます。食べたいものを好きなだけ食べる人、健康志向でいつも食には気をつけている人、いろんな人がいると思われます。そのような中で、正しい情報を知って、正しい栄養バランスの取れた食生活を送ることができれば、子どもも大人も健康に過ごすことができるのではないのでしょうか。特に子どもの食生活は、子どもの脳の発達、心身の健康、さらに大人になった時の生活習慣病にも影響を与えるものですから、とても重要です。安心、安全、正しい栄養バランスの取れた食生活を送ることの提案を「はなまるクッキング」を通してお伝えできればという思いから活動を始めました。

重点的に取り組んだこと/成果

2022年度は、年間7回（2022.12.13.まで）のはなまる食育クッキングを実施し、10月には50回目を迎えました。クッキングの後の食育コーナーの時間は、各回テーマを決め（ミネラル不足の話、食品添加物、トランス脂肪酸、植物性たんぱく質の大切さ、食品添加物とジュース作り実験など）15分～20分、映像資料等を使い実施しました。今年度は、気軽に参加できるように時間を短くして一品だけ作る、ミニミニクッキングも実施しました（万能ダレ作り、シフォンケーキ作り）。この会でも食品添加物のことについて考えてもらう機会になりました。8月のキッズクッキングでは、安部 司先生のジュース作り実験キットを使い、添加物でジュースを作りました。作りながら味見をしたり、色の変化を見たり、実際には果物は入ってなくてできたことに子どもたちが驚いていました。今後、ジュースやゼリーを食べるときに考えてもらえるきっかけになったと思います。和食には欠かせない、手作り味噌の良さを伝えるために、味噌作りを実施しました。夏休み親子味噌作り教室は、応募者が殺到し、急遽2回実施することにしました。子どもたちは、真剣に取り組んでくれました。食育は、紙芝居を使い和食の良さ、ご飯とみそ汁が体に良いこと、大豆は体を元気にしてくれる話などをすると、真剣に聞いてくれました。お父さん、お母さんは勿論のこと、おばあちゃんの参加もありました。

課題/解決に向けての取り組み

はなまるクッキングは、調理室の定員10名（コミセン対応人員）という人数制限のある中で実施しています。コロナ禍でもできる形で活動を1年間継続することができ、自信につながりました。今後も会場に参加される方には安心して参加して頂けるように十分な感染防止対策を実施します。また、状況に応じて、オンラインも活用していきたいと思います。会場は、主に田迎西地域コミュニティセンターでの活動を続けていきますが、田迎西コミュニティセンターは、利用者の方が多いので、ほかの会場での開催も視野に入れて様々なことに取り組んでいきたいと思います。今後もミニミニクッキング、味噌作りも継続していきたいと思います。

今後の展開

2023 年も田迎西地域コミュニティセンターの利用は制限されると考えられますので、子育てに役立つことを考え、コロナ禍の状況に応じて食育活動をやっていきたいと考えています。今後も「安心、安全、そして、簡単で美味しい、栄養たっぷり」をテーマに開催していき、食の大切さと、正しい情報をお伝えしていきます。

連携団体

NPO 法人日本食育協会、NPO 法人福島県食育協会

問い合わせ

		 or 
Kyky19562015hhyik@yahoo. co. jp	090-5742-1520 (担当者氏名) 横山久美子	

2022 年度 活動報告書 写真送信分です



はなまるクッキング

ミニミニクッキング



夏休み親子味噌作り教室



キッズクッキング

ひびPECSサークル

活動を始めるきっかけ/活動概要

自分の気持ちを伝えることが難しい子どもたちに『コミュニケーションは楽しい』と思えるような指導法や療育方法を実践していきます。手話などと違い、誰にでもわかりやすい絵カードなので、いろんな人とのコミュニケーションができるようになります。無発語のお子さんのトレーニングで発語が促される効果が高いと報告があります。また、子どもたちの中には問題行動を起こすことがたびたびありますが、相手に伝わる伝え方を学ぶことで落ち着きが増え、穏やかに過ごすことができるようになり、自分から問題解決することを学ぶことで自分に自信が付き意欲も高まります。また、子どもたちが取り組みやすく保護者も導入しやすいiPadでのコミュニケーションのPecs指導も行っています。



重点的に取り組んだこと/成果

- 本年度はコロナ感染拡大予防のために、ZOOMでの勉強会開催をしています。今年からPecsを始められたお子さんのお母さんのために、Pecsの基礎や導入の仕方をわかりやすく学べるように取り組みました。
- 発達障害のお子さんのために、発達障害の特性を学ぶと同時に、日々の生活の中でどのようにコミュニケーションを増やしていくか、状況にそぐわない行動があったときにはどのように対応するのかなどを、Pecsの使い方を通して学びました。
- お子さんのコミュニケーションの伸びに不安のあるお母さんに対して個別の面談をしています。普段の生活の中でコミュニケーションを伸ばす工夫や、お子さんの特徴や個性に対しての対処の仕方、お母さん以外の家族のかかわり方などを、個別に数回にわたりワークショップを実施しました。

課題/解決に向けての取り組み

●絵カード交換式コミュニケーションに誤解があること。代替コミュニケーションを使うと話せなくなると勘違いしている方が多いです。Pecsではコミュニケーションの初めの一步、人とかがかわることから教えていくので自発的なコミュニケーションを育てます。Pecsを使い始めたお子さんの80%以上に発語が見られたというデータがあります。WHOの報告されたエビデンスに基づいた信頼のある支援方法です。今後も活動の中で正しい認識をしていただけるように頑張りたいと思います。

●「Pecs」という知名度がないこと。一般的に、「話す」ことは自然と身に付くように感じていらっしゃる方が多いようです。療育の必要なお子さんは特にコミュニケーションが苦手なお子さんが多いです。私たちの活動を広く知っていただき、コミュニケーションの楽しさを実感していただきたいです。

今後の展開

●SNS等での情報をお届けしながら、私たちの取り組みを知っていただく機会を増やしたいと考えています。コミュニケーションを学ぶ機会を提供・提案できる公共施設として、保健所や児童館・熊本市子ども発達支援センターなどにPecsサークルのチラシ等の配布を考えています。

●ZOOMでの勉強会だけでなく、実際に対面で子どもたちとのやり取りを見ていただきながら、その効果を保護者に実感していただき、またその場で保護者にも実践していただく場面を設け、より実践しやすいワークショップを企画したいと考えています。

連携団体

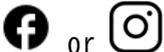
●ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン株式会社

福岡市南区清水1-23-1-202

●NPO法人就労特化型支援団トリニティ

熊本県上益城郡御船町辺田見 361-4

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		
pecs@npo-trinity.jp	096-282-6035 (担 当 者) NPO 法人トリニティ大塚	

植木寺子屋山東塾運営委員会

活動を始めるきっかけ/活動概要

地元山東小児童の生きる力を育み、地域の文化を学び感謝の気持ちを醸成し、世代間の交流と児童の健全な育成を目的としてスタートしました。

重点的に取り組んだこと/成果

今年は、コロナ感染症に注意しながら、①令和4年7月24日そうめん流し&水遊び、スイカ割②令和4年10月8日芋掘り、竹箸作り体験会③令和4年12月17日餅つき大会④令和4年12月20日6年生児童と門松作りを実施。学校や家庭でなかなかできない体験会を開催しました。

課題/解決に向けての取り組み

塾生児童の保護者への連絡のスピード化を図るため、今年度からLINEを使つての連絡に切り替え、双方向の連絡が取れるようにし、時間の短縮化に取り組みました。

今後の展開

コロナ禍のため、児童の夏休みを利用した校庭でのキャンプ、天体観測体験ができなかったのが残念でした。来年度開催できればと考えております。

連携団体

山東校区自治会長会、熊本市立山東小、山東小PTA、山東小おやじの会、山東子ども園、山東校区女性の会、他

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
santo-com@wind.ocn.ne.jp	096-272-4368 (担当者) 坂本明・田平佳代	



植木寺子屋 山本塾

活動を始めるきっかけ/活動概要

山本塾は、熊本市立山本小学校の参加希望児童を対象に、月曜日の放課後、子どもたちの安全・安心な居場所づくりのために地域の方の協力を得て、心豊かで健やかにはぐくまれる環境づくりを推進するために立ち上げられた団体です。平成 27 年から始まり、当初は山本小学校の余裕教室等を活用して書写や英会話、山本の歴史学習等の活動を行ってきました。しかしコロナ禍のために室内での活動は休止せざるを得なくなりました。また、校区で行われた夏祭りや山本小バザーが中止となり、出店による活動資金確保がきびしくなりました。そこで昨年より山本小学校の近くにある畑を借りて、野菜の栽培・収穫・販売活動を始めました。感染リスクの少ない野外での活動であり、なにより自然の中で野菜を栽培し収穫の喜びを体感する活動です。また収穫物は販売し、収益は子どもたちが考えて山本塾の活動に活用することにしました。



重点的に取り組んだこと/成果

6 月から山本塾の活動がはじまり、工作活動や山本夏祭りの子どもの出店準備を行い、並行して農園活動を行いました。月に 4 回程度の活動のため農作業の活動時間は限られていますので、手間のかからない野菜として秋ジャガイモと秋南瓜を栽培しました。畑の耕耘は地元の農力会やスタッフが耕耘し、8 月に南瓜の種まき、9 月にジャガイモの種イモを植えました。南瓜は放任栽培でジャガイモの手入れは脇芽かき、土寄せ、除草を行い 11 月に南瓜とジャガイモの収穫を迎えました。昨年は校区にある地域の店舗で収穫したジャガイモを販売しましたが、今年は道の駅「すいかの里植木」に出荷して販売することにしました。子どもたちが計量して袋詰めし、宣伝用のシールやバーコードを貼り出荷しました。実際に商品化して販売することで、お客さんにどう喜んで買ってもらえるか考え、農業だけでなく商業の体験もできました。12 月には、収益を利用してたこ焼きパーティーを行いました。自分たちで野菜を育て、販売したご褒美です。5 月末に、今年の山本塾への参加募集を昨年の塾生たちが呼び掛けました。そのとき「山本塾の楽しみは自分たちで考えたことができるからです。」と言いました。昨年度は、3 月に収穫祭を行い、収益を使って一人一個ずつケーキ作りをして塾生は大喜びでした。今年度も今後収益は様々な活動や収穫祭に活用する予定です。自分たちで考えて、実現することの楽しみをさらに味わうことだろうと期待しています。



課題/解決に向けての取り組み

今年の第1回目の山本塾でそれぞれが抱負を発表しました。その時のキーワードは「みんなと協力して」でした。しかし、工作活動等では、自分の作業に夢中で互いに助け合う姿は少なく、スタッフに頼ることが多くありました。「みんなと協力して」という言葉を実行に移すことは容易ではありません。また今年度の塾生募集のキーワードを「今年は、栽培販売活動・スポーツ活動・野外活動などを通して、自分たちで考えて山本塾をエンジョイします」としました。指示待ちの子どもたちから、自分たちで考えて活動すること、高学年が低学年に教えること、経験者が未経験者に伝えることなどを、意識付けていくことで、みんなで協力することを実現してほしいものです。また今年の山本夏祭りでは、塾生は自分たちが作った手作りおもちゃを販売しました。活動の振り返り後、来年は自分たちが夏祭りで楽しく遊べる活動をしたいとまとまりました。実現に向けて、構想をねり、やらされる活動からやりたい活動へ取り組んでほしいものです。

今後の展開

今回、熊本市より子どもの未来応援基金より助成を頂きましたので、農具等経費のかかるものに充てることができ農園活動の基礎ができました。今後は、補助に頼らず独立して経営体験活動ができそうです。山本塾は、放課後を利用して、学校の教育現場では実現しにくい活動を長期計画のもと、縦割りの学年によって実践できる活動です。地域の協力のもと自分たちで得た収入を生かして、自分たちで考え、実践する活動の場をさらに充実してほしいと思います。

連携団体

熊本市立山本小学校、植木寺子屋塾、山本校区青少年健全育成協議会、農力会、やまびこ児童育成クラブ、防犯協会等校区の諸団体

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
	090-3733-2692 (担当者氏名) 境 俊次	

NPO法人せいしとらんし熊本

活動を始めるきっかけ/活動概要

いずれ訪れる初経や精通について、その仕組みや対処方法をどう伝えるかは各家庭によって様々である。なかなか親子では話しづらい性の話もこの活動を機にできるようになってほしい、そして体の変化や成長を親子で楽しみに待てるようになってほしいと考え、本活動を企画した。

- (1) 実施日時：7月20日～10月20日（配信期間）
- (2) 内容：保護者向けおよび子ども向けの動画を制作し、視聴希望者に届ける。

重点的に取り組んだこと/成果

「自分に合う生理用品を選択する方法は？」「射精の後始末はどうするの？」など、学校の授業では学ばない内容を伝えるかどうかは各家庭に委ねられている。ひとり親家庭で親と子の性が異なる場合、そのハードルはさらに高いものになるだろう。保護者用動画を視聴する事により、各家庭で子どもの性にしっかりと向き合うきっかけとなった事かと思う。

保護者用動画視聴後のアンケートに、「日頃の悩みが一気に解決したように思う。性は、どこかタブー視してしまいがちだが、きちんと向き合うこと、まずは大人がしっかり向き合うことが大切だと知れた。子どもたちにもしっかり正しい知識を教えていきたい。」や「親子で一緒に準備をしておくこと、理解しておくことで、成長を喜んだり困った時の相談相手になったりできるのだなぁと改めて感じました。」といった声があり、「子どもたちには性の知識についても知る権利や学ぶ権利がある」ということを我々大人が今一度考える機会となれたのではないかと思う。子ども向け動画では、月経や射精といった生理現象は、今後の子どもたちの人生の長い期間において付き合っていくこととなる為、初経や精通の前に、これから起こる体の変化を科学的に伝え、子ども目線で沸き起こる疑問や不安を解消しておくことで、来たるその日を「楽しみにして」待つことができる様な動画を作成する事ができた。

課題/解決に向けての取り組み

【動画1：保護者向け講座】

演題：「初経・精通を親子で楽しみに待つ秘策とは？！～性の会話は親子のハッピータイム～」
初経や精通を家庭でどのように伝えたいか、その内容やおさえておきたいポイントなどを視聴者にわかりやすい動画教材にして配信する。各家庭で子どもと二次性徴について話し合い、性に関する話題を話し合える関係性を築くための第一歩となるような動画。

- ・ 性教育講師、障がい児支援員、保護者2名の4名によるトークセッション形式。
- ・ 配信方法はYouTubeによる限定配信。 <https://youtu.be/jKULRjEPg58> 991回再生
- ・ 配信期間は7/20～10/20



【動画2：子ども向け教材】

動画名：「すごいぞ！ぼくのからだの進化！」（男の子編）

「まるで魔法？！わたしのからだのはなし」（女の子編）

二次性徴による体の変化を視覚的にわかりやすく伝える動画を。全ての子どもに起こる現象であるので誰が観てもわかりやすいものになるよう工夫することを心がけた。（字幕をつける、短時間での確に伝えるなど。）異性の体に起こる現象も知れる動画。

- ・おりちゃん先生、たかあき先生による授業形式。
- ・配信方法はYouTubeによる限定配信。

<https://youtu.be/7YRq1w13HqE> 136回再生

- ・配信期間は7/20～無期限



今後の展開

本助成活動や普段の法人事業で、子ども向けの動画を精力的に制作していき、DVD化（もしくはデータ化）することを検討している。これにより性の学びの必要な子どもが個々の成長発達の適切なタイミングで視聴することができるのではないかと考える。性的な興味関心が芽生えた子どもたちが最初に目にするのがインターネット上の不確かな情報ではなく、当法人の制作した動画となるよう早急に取り組んでいきたいと考えている。

連携団体

特定非営利活動法人NCK

（重症子ども発達支援センターエイムズ長嶺東）

熊本市教育委員会

問い合わせ

		 or 
info@seirankumamoto.com	096-323-6070 （廣岡真依子）	Instagram 【seishitoranshi_k】 https://www.instagram.com/seishitoranshi_k/

特定非営利活動法人 教育支援プロジェクト・マスターズ熊本

活動を始めるきっかけ/活動概要

本NPOでは、子どもを取り巻く環境が複雑になり、教師や保護者だけの取り組みだけでは真の健全育成が不十分であるため、学校外での子育て支援が必要と考え教育支援の活動を行ってきた。

近年、少子化・核家族化が進み子育て世代をめぐる環境が厳しさを増しつつある中で、収束の見えない新型コロナウイルス感染症により子育て世代の孤立化に拍車がかかり、多くの保護者が子育ての悩みで精神的に追い込まれる状況が見られる。その中でも子育て中の保護者が日頃の悩みや不安を少しでも軽減するために今、問題になっている事柄をテーマに親同士が集い話し合い、学ぶ場の提供を行っている。

重点的に取り組んだこと/成果

コロナ禍で外世界との接触機会が減少したことで、家族時間は増えたものの子育ての孤独感やこれからの子育てへの不安は強まったという方も少なくない中、子どもの発達プロセスにおける行動や感情を教育の専門家から学び、子育て中の保護者とともに感情コントロール方法を知り、分かち合い「良好な親子関係」のきっかけとなるようなプログラム内容で6回にわたって講座を行った。今回は、野外活動や父親としての子どもの関わり方などをテーマに父親にも参加を呼びかけた。託児を準備し、母親が家でゆっくりできる時間を作ってもらうなどの配慮を行った。託児には高校生や大学生のボランティアに参加してもらっている。父親の子育ての学びの姿勢を若い世代にも感じてほしいと思う。専門家からのアドバイスや知識を得る事ができ、子育てにおける悩みを相談できる場の提供や、ワークショップで他の参加者と意見交換するなど、家庭で親が一体となって子育てに関われるよう取り組んだ。参加方法も会場・オンラインと参加者が状況に応じて選択できるようにハイブリッド形式（野外活動を除く）で行った。



参加者の家族からのメール

「前回の子供と一緒に火遊びではパートナーの子育てへの意識が大きく変わり、またこういうのもっと関わりたいと自発的になりました」

課題/解決に向けての取り組み

運営スタッフが不足した現実の中、学生ボランティアの手伝いが大変ありがたかった。今後、スタッフの確保や進行などスキルアップが必要である。また、広報不足で参加者が少なかった。今後は、広報活動においても検討していきたい。

本講座を通して、人とのつながりができ、相談窓口を知ってもらえることができれば、講座が更に有意義なものになると考えている。継続的な学びの場の提供が必要と感じている。

今後の展開

子どもと親が共に学び合う共育をテーマに野外活動や製作活動も取り入れながら、また、参加方法も外出が不可能な場合、在宅でオンラインを活用したり、直接講師からアドバイスを希望する方には会場というリアルとオンラインを融合したハイブリッドなスタイルで、これまでのように引き続きアンガーマネジメントや不登校についてなど今、直面して子育てに悩み不安を持った方に向けて笑顔になれる講座を企画、運営したい。

開催の内容や講師の紹介

令和4年度 熊本市子どもの未来応援基金事業

親のスキルアップ講座

子どもの発達プロセスにおける行動や感情を教育の専門家から学び、子育て中の保護者とつながり、「良好な親子関係」のきっかけとなるようなプログラムです。子育てを、多よりもっと楽にできるヒントをみつけて親としてのスキルアップをしませんか？

パパ (定員20名) 野外のみ先着10組

ママ 30名

無料 就学前託児有 (予約制)

卒業参加可!

開催日	内容	対象	場所
① 7/9 (土)	「あそび心が立ち上がる瞬間☆～やる気スイッチ ON!」子どもと参加型 講師 水野 直樹氏 PaPa ラボ代表	パパと子 20組	バレア
野外 8/20 (土)	「子育てに野遊びを～焚き火編～」子どもと参加型 講師 小原 恵二氏 社会教育士	パパと子 先着10組	龍田プレイパーク
② 9/10 (土)	「子育ての『困った…』はチーム戦で乗りきろう!」 講師 古閑 智子氏 Kei こころの相談室代表	パパ 20名	バレア
③ 10/22 (土)	「アンガーマネジメント～職場・家庭で笑顔のあなた」 講師 堀川 香代氏 株カウンセリングルームら・らぼーと代表	パパ 20名	バレア
④ 11/26 (土)	「子どもの可能性を伸ばす効果的な関わり方」 講師 知識 茂雄氏 (株)ハート・ラボ・ジャパン代表	パパ 20名	バレア
⑤ 12/10 (土)	「ベップトーク☆心をはぐくむ声かけ術」 講師 水野 直樹氏 PaPa ラボ代表	パパ 20名	バレア

問い合わせ (未記載の項目があっても構いません)

✉	☎	f or 📷
mastarskuma@gmail.com	050-3553-3683 (担当者氏名) 民長博美	

NPOこころサポート熊本

活動を始めるきっかけ/活動概要

全国的にも家族規模が縮小し、地域との関りが減ってきている社会で育児に対する孤立傾向がある。保育や学校の現場でも対応に苦慮しているという話が現場からよく聞かれる。そしてそれに親の関わりの問題が大きく関係しているといわれているが、親もどのように接したらいいのか対応がわからず不安を抱えているという現状がある。その不安の中子育てしているお母さんへ子どもとの正しい関わり方を伝えるとともに、親同士の繋がりを作る場も同時に目指す。公認心理師がリーダーとなり指導し、親子の心の支援をするグループとして関わっていく活動を行う。

重点的に取り組んだこと/成果

不登校、引きこもり、心の病、発達の問題、DVの問題、貧困など、どれもその中で生きる人にとっては厳しい環境や状況でもあり切実な問題です。今はそうではないとしても「どうしたら幸せに生きていけるのか?」「どうしたら大切な人が笑顔になるのか?」これを常に考え、良い支援を実現していくことを目指します。お互いに学び成長する集い、人の拠り所となれることを心から願い活動することは、この先必要とされていることでもあると考えています。「子どもと笑顔で過ごすためのプログラム」全12回では、子どもに接するときの間違った常識に気づき、効果的な子どもの気持ちの受け止め方を学ぶことで子育ての不安が軽減されます。お母さんの心が安定してくると、子ども達の自己肯定感も高まり心からの笑顔が増えます。

課題/解決に向けての取り組み

全12回のプログラムは、全部の回に参加が難しい方が多かった。単発のプログラムを望む声も多く聞かれたので、どの回でも参加できるように告知していきたい。

今後の展開

子育て中の多くの方に「子どもと笑顔で過ごすプログラム」に参加して頂き、心のことの正しい知識と問題行動に対する効果的な関わり方を伝えていきたい。

一つの地域にとどまらず、親同士の繋がりを作る場としても活動を広げていくことを目指す。

連携団体

(株)メンタルサポート研究所



問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
	090-2510-3246 (担当者氏名) 安徳 寿賀子	

NPO法人コロボックル・プロジェクト



活動を始めるきっかけ/活動概要

・自然や動物が大好きで、個性豊かで（発達障がいほか）やんちゃな子どもたちと、南阿蘇の里やまで川遊びや自然観察、訓練された犬たちと触れ合うことで、生きもの共生（社会）をめざす（やんちゃキャンプ）

・夏（7/30・31、子ども6人・大人5人：4家族、スタッフ5人、
秋（10/22・23、子ども3人・大人2人：1家族、スタッフ8人、
訓練犬3頭）

冬（12/17・18、子ども3人・大人2人：1家族、スタッフ8人、
訓練犬3頭）。カイハラ動物病院保養所周辺で実施。



重点的に取り組んだこと/成果

① 安全・安心に活動できるプログラムづくり

・新型コロナウイルス感染防止：主催者対応（電子体温計や消毒薬の準備、資料・食材等の個別配布）と参加者への協力依頼（健康状態の確認、マスク着用、三密への対応、使用物の共用不可、緊急時の対応）の共通理解・徹底のもとで、家族ごとのテント・バンガロー泊で実施。

・新規参加者：LINE・マスコミでの広報により、夏に新規2家族には活動のより丁寧な説明。秋・冬は同じ家族で犬とのふれあい活動では犬に対する丁寧な対応が見られた。



② 安全・安心に活動できる支援体制づくり

・感染防止のため参加者・家族数制限。自然体験指導・犬とのふれあいスタッフの精選（秋・冬は充実）。



課題/解決に向けての取り組み

- ・四季折々の実施（夏：自然体験活動、秋・冬：犬とのふれあかも実施）
- ・活動内容の充実（夏：川・森での活動、調理、親子木工。秋：里やまの宝探し、星の観察、犬との探検、ドングリアート。冬：里やまの宝探し、調理、未来プランづくり、犬との雪山探検、クリスマスリースづくり）。



- ・「生きもの共生教育」の共通理解：（アンケートによる）
（子ども）犬とあそんで、えさをやったり、さんぼしたのがたのしかった。/フユイチゴがおいしかった。
- （家族）子どもたちと一緒にのびのびできました。久しぶりにテントと寝袋で寝ることもやはりワクワクしました。/寒い中にたくさん探検して、ずんずんヤブにも入っていく子供たち、とても楽しそうでした。
- （動物スタッフ）犬も人も慣れてきて、ほどよい距離感で過ごせたと思います。リードから手を離すと、子どもたちがいろんな所にとんでいくことが新鮮でした。
- （動物スタッフ）花ちゃん・犬もだいぶ慣れてきて、子供たちと上手にふれあってくれた。子供たちも前回以上に上手でとてもよかった。
- （子育て研究家）やんちゃキャンプと係るスタッフ、子供の変化（成長、停滞、横ばい、葛藤）など人生のひと模様を見せてくれる。“我思う、ゆえに我有り”から“我歩く、故に我有り”へ、または両方が共に！！



今後の展開

- ・四季を通じた活動での「生きもの共生教育」の発展、「ワンヘルス教育」の取組
- ・創発的カリキュラムの充実
- ・withコロナ時代のキャンプ充実

連携団体

- ・動物介在教育チームカイハラ
- ・相互支援の会スマイルハート

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
Kaibara29@yahoo.co.jp	090-2962-8668 (担当者 甲斐原)	https://www.facebook.com/colobokkuru/ LINE (gan2954)

保育者の子育て塾

活動を始めるきっかけ/活動概要

もと保育者が『保育者の子育て塾』と称して、おおらかな気持ちで子育てできる親を育てる『親育て塾』である。活動を始めるきっかけは、コロナ禍の中で生まれた孫の子育てを、ママがネット情報から参考にしていたことを知ってから。そんなことくらいだったら教えてあげられるよ!と子育てセミナーを開催するようになり、そのうち頭でっかちばかりでは最高の子育ては出来ないと、公園や江津湖に連れだし五感を育む遊びの伝授を始めた。2022年4月から非営利団体としての活動をはじめ、コロナ禍の中で寂しさや不安を感じている親に【子どもとの遊びを伝授する】と同時に、【育児支援の居場所づくり】を保障して、楽しみながら親子の【心と身体と脳みそをはぐくむ】ことが活動目的である。

重点的に取り組んだこと/成果

- 子どもの発達を促す理論に基づく【0歳から3歳までのリズム遊び】
- 子育てにすぐに活かせる【わらべ歌伝承】と身体の発達を促す【ベビーマッサージ】
- 子どもの心とカラダを開放するダイナミックな遊び【絵の具アート】手指をはぐくむ【新聞紙アート】
- 夏ならではの遊び【江津湖の水遊び】●畑活動【夏野菜と冬野菜】●クリスマス会●もちつき

成果としては、『楽しかった』を感じた親子が『また行ってみようかな』と少しずつリピーターが増えつつあること。また途中から始めたプチセミナーの中で、理論的に、子どもの発達の道すじを伝えることが出来はじめ、子どもへの関わり方や、乳幼児期の遊びの必然性を、親が分かり始めてきたことである。

課題/解決に向けての取り組み

課題は、遊び中心であるため、短時間でゆっくり親と話す余裕が持てないでいる事。また集団のなかで遊びに参加できない我が子を見て、落ち込んだり、参加を持続できなくなったりという事例がある事。指導者が一人なので、それらも含め参加している親に寄り添える環境/人材の確保をしていくことが今の課題である。解決に向けて、もと保育者に呼びかけたり、保育者でなくても、親の心に寄り添える仲間作りを私自身が拡げていくようにしたい。次年度は(支援者の仲間作り)を心掛けていくと同時に人には言えない親の悩みを、相談できる場所なんだということをしかりとアピールしていきたい。

今後の展開

公民館でのリズム遊びを定期的で開催する事で、乳幼児期の心やカラダの発達が保障できる遊びであることを親の意識に定着していきたい。併せてプチセミナーの開催で発達の道すじを知らながら子育てする事の大切さを伝え、親の心育てをしていきたい。非営利団体として2年目なので、1年目はわからずに進んできたことも、理解しながら拡がりを持たせたい。子育ての土壌は、一人の力だけではなく、周りの力をかりながら2倍にも3倍にも楽しさが拡がることをつくりだしていきたいと思う。

連携団体

- 東区まちづくりセンター●山之内民生委員・児童委員●乳幼児ママパパ教室
- 山之内小学校●HAPPYPARKプロジェクト(つながる居場所相談)●東区土木センター
- 東部公民館●大江公民館

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
yoshinoppi0323@gmail.com	080-5260-0323 (担当者氏名)百合本佳乃	hoikukosodate0323【保育者の子育て塾】

Office38 Wind Bell

活動を始めるきっかけ/活動概要

「制服の洗い替えが欲しいが、知り合いがおらずに困っている」「制服を譲りたいが、少しだけほころんでいて、人に譲るには申し訳ない。とはいえ、使えるのもったいない」などのたくさんの保護者の声が聞かれたため、制服を補修し、リユースすることにした。学用品も集め、提供を行った。また、「勉強がわからないから、宿題をしていかない」といった子どもたちからの声を聞き、令和4年度から学習支援も行っている。

重点的に取り組んだこと/成果

口コミやSNS, 団体の全体LINE等を利用して呼びかけ、制服や、その他学用品にかかわるものを集めた。地域の方のみならず、遠方の地域の方からも要望があり、様々なサイズの制服や体操服、体育館シューズなどを集めることにも尽力した。また、子どもたちへの学習支援への要望も上がったため、本年度から学習支援も開始。月2回から4回ほど学習支援を行った。「今日は勉強会ないの?」と子どもたちからの声も聞かれるなど大変喜ばれ、継続を希望する声がたくさん聞かれている。

課題/解決に向けての取り組み

制服や学習用品の提供はあるが、開催場所に設置している倉庫には入りきれず、提供をお断りすることもある。倉庫を別場所に借りることも検討したが、予算の問題とそれ以上に、必要な方のニーズや、スタッフのマンパワーを考えても、現実的ではない。今後の検討課題である。

今後の展開

今後はさらに制服選びがしやすい環境を整え、新年度の物販、制服購入が始まる前の時期に、リユース会を行うことを継続していきたい。さらには、子どもたちが苦手科目にもチャレンジする意欲を引き出せるよう、学習支援を継続していきたい。

連携団体

子育てRebornプロジェクト



↑ 勉強を教えているところ。



↑ 制服や学用品を集めて、リユース活動。

問い合わせ

		 or 
<p>070-5416-8157 (担当: 森高)</p>		

たけみやいもほりファミリー会

活動を始めるきっかけ/活動概要

- ・熊本地震が起こった時、地域の皆さんが不安な日々を過ごす中、日頃から交流していることがとても大切であることを痛感しました。また、新型コロナの影響でちょっとした交流もできにくくなっている昨今の状況です。
- ・これまで個人的に家庭菜園をしていましたが、近所には比較的たくさん子どもたちが住んでいます。しかも、小学生以下の子どもたちがたくさんいます。
- ・そこで、子どもたちとその家族と一緒に集まって楽しくイモ掘りができたら、親交も深まりいざという時にも声を掛け助け合うことができると思いました。
- ・具体的な活動は、春のジャガイモ掘りと秋のサツマイモ掘りを近所の親子が集まって楽しく行います。

重点的に取り組んだこと/成果

- ・私は、この地域に以前より住んでいますが、ご近所の子育て世代の方とは挨拶を交わす程度でした。そこで、イモ掘り会の趣旨を説明し、気軽に参加していただくことにしました。
- ・初めは、どのような方が参加するのか遠慮する方もいらっしゃいましたが、お知り合いの家族も誘って参加していただくようになりました。
- ・回を重ねると、「参加したいと思っていたが、誘いの声を掛けてもらって嬉しかった。」というお声もいただき、少しずつ交流の輪が広がるのが良かったと思います。



課題/解決に向けての取り組み

- ・近所には賃貸アパートが数軒あり、子育て世代の世帯が住んでいるのか把握が十分にできていません。そのため、イモ掘り会への参加の声かけを全てにできていない可能性があります。
- ・隣は声かけがあったが、自分の所はないという不平等感がないように、メンバーで情報共有し近隣の子育て中のご家庭に声かけを心がけて行いたいと思います。

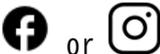
今後の展開

- ・現在のやり方を継続して、参加者を増やしていくことと、収穫したイモを使って料理をして交流できると良いかと思います。（新型コロナの感染が収まらないと難しいですが）

連携団体

- ・今のところ連携する団体はありませんが、自治会などと連携して地域の行事の1つとなると良いかと思います。

問い合わせ

		
	090-9575-3832 (担当者氏名) 八谷 齊	

プラダー・ウィリー症候群の子を持つ有志の会

活動を始めるきっかけ/活動概要

- ・1万人から1万5千人に1人という国指定難病。九州、熊本には支援団体が少なく、熊本にPWSの支援団体として立ち上げ8年になる。
- ・毎年PWS(プラダー・ウィリー症候群)患者、医療(ドクター含)行政、他全ての関わりのある方々と共に活動を進めてきた。県内外からも必要とする方々が多く、患者家族だけで介護するには限界があるという現状。今後も多くの方々に周知をしながら、PWSの子供たちやその他の病気や障がいを持つ子供たちが生きやすい社会になっていくよう、様々な方々と連携し、必要とされる団体を目指していく。

重点的に取り組んだこと/成果

- ・感染症対策を整え、熊本からWEBで全国に発信した。70名程の申し込みがあった。スタッフと共に今後の研修、講演会の形を考え話し合った。成果として、終了後のアンケートで、諸問題を抱えるご家庭から、「解決の方向性が見えた」という声や、教員、支援者からは「解決の糸口を教えて頂いた。また来年も参加したい」などの声を頂いた。
- ・今後も引き続き、一人一人の家庭の中に見え隠れする諸問題に支援の体制を行き渡らせることが必要と感じる。患者が通う、学校、入所しているホーム、支援員、行政にも、どのような支援が必要なのかを知ってもらう為に、講演や研修を行った。
- ・連携する団体が増え、テレビの取材の依頼が来た。

課題/解決に向けての取り組み

- ・今後は、WEBだけでなく、感染対策をしながら、少人数でもよいので、以前の対面式に戻す方向性。患者が孤立してしまわないようにすることが、会の役目。
- ・学校、医療、個人、患者などから必要とされる団体であり続けるために、学ぶ機会を全国に発信、提供していく。

今後の展開

- ・連携する団体や、ホームでの様子等、見学や視察の機会を持つ予定。
- ・少人数で、ドクターとの学習会を開く。(少しずつコロナ禍以前に行っていた内容に戻す)

連携団体

- PWS新潟有志の会
- 児童発達支援事業所 親と子サポートセンター
- 熊本県難病支援センター
- 医療法人美里みどり会 間部病院小児科 間部 裕代 医師



問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
Pwsa37@yahoo.co.jp	久保 なお子 (担当者氏名)	https://www.facebook.com/pwsn3737

子育てネットワーク「縁側 moyai」

活動を始めるきっかけ/活動概要

熊本で子育てをするママや親子の支援を目的として、活動を開始。熊本地震の経験から、日頃からの近所付き合い、相互コミュニケーションによる絆づくりの必要性を認識し、以下記載の活動内容を実施している。主な活動は以下の通り：

①サークル活動（年間約 90 回）／②ママ達の口コミサイト「縁側 moyai 情報バンク」運営／③ママ達の居場所作り「きてきて」／④田畑に触れあう「みんなの畑」プロジェクト／⑤子育て相談交流の場／⑥育児グッズ・お下がり服の譲渡会／⑦県内おすすめ商品のご紹介 ほか重点的に取り組んだこと/成果

熊本市子どもの未来応援基金からの助成により、上記④の田畑に触れあう「みんなの畑」プロジェクトの活動に重点的に取り組んだ。農業に触れ作物の育ちを学び、収穫を体験する機会の提供と、子どもの食育を目的として、以下のような農業体験、農や食に関わる体験、加工体験を企画。2022 年 12 月までに計 14 回開催し、延べ 136 組、335 名以上の親子が参加した。

- ・ 郊外の農家の協力による、米やさつまいもに関わる親子体験企画（田植え、じゅったんぼ、稲刈り、しめ縄作り、さつまいも苗植え付け、芋掘り、いきなり団子・だご汁作り）
- ・ 活動拠点隣接の畑での小規模な親子農業体験企画（「菌ちゃん農法」による土作り、夏野菜栽培と収穫（オクラ、バジル、スナップエンドウ、しそ等））
- ・ その他の収穫・加工体験（いちご狩り、梅収穫、梅干し・らっきょう漬け作り、玉ねぎ麴作り・麴料理作り、味噌作り（予定）、阿蘇高菜収穫と漬物作り（予定））

転勤等で熊本に来て間もない子育て世帯、熊本在住であっても普段農や食に触れる機会の少ない子育て世帯に対し、生産者や地域住民と交流しながら食や農に触れてもらう機会を提供できたことで、熊本の豊かな自然や魅力、農環境や食育への理解、関心を深めてもらうことができた。子どもたちが屋外で伸び伸びと土や自然に触れる体験を通して学ぶ機会、子育てママ同士や乳幼児から小学校高学年までの異年齢の子ども同士が交流できる機会の提供につながり、参加者満足度の高い取り組みとなった。

課題/解決に向けての取り組み

●新型コロナウイルス感染拡大状況下での活動

昨年度に引き続きコロナ下での実施となったが、屋外開催が中心だったことに加え、イベント開催時の感染防止対策徹底により、当初計画通りに開催することができた。また、各企画は募集開始から短期間で定員に達し、コロナ禍により家庭や保育・学校現場でさまざまな活動が制限される中、屋外イベントや食と農の体験に対し、子育て世帯の間に依然として高いニーズがあることが伺えた。今後もこの傾向は続くと思われ、感染状況にも配慮しながらニーズにどのように応えていくか、可能な形を模索検討していきたい。

●新たな小規模農業体験企画の模索

昨年秋に活動拠点が移転したことで拠点隣接の畑が無くなり、庭を活用した農業体験企画が実施できなくなった。今後はプランター等での栽培や開催方法の変更（講習会と各家での

実践を組み合わせた企画など)などを検討している。

●企画運営スタッフの拡充

当団体の企画運営はすべて子育てママが担当しているが、企画運営に関わるスタッフが固定化され、慢性的なスタッフ不足が課題である。今後も引き続き、それぞれの子育てママの状況に合わせた業務や関わり方を整理し、スタッフ協力者の呼びかけを続けていく方向である。
今後の展開

コロナ禍の影響を一部受けつつも、「みんなの畑」プロジェクトは継続的に取り組んでおり、現在では新規参加者やリピーターの多い人気企画となっている。子育てママ達の中のニーズも高く、また協力いただく農家や講師役の地域住民からも、小さな子供や都会の子育てママに食と農の現場を知ってもらう活動に対し高い評価と満足度をいただいている。随時活動の見直しや充実を図りつつ、引き続き来年度も活動実施を計画している。また、その他の活動全般についても、参加者ニーズやコロナ感染状況に合わせ、オンラインツール活用、ウェブ発信強化、スタッフ拡充、育児に悩むママのニーズ把握と解決のために地域や行政との連携強化、安定的運営のための組織基盤整備に取り組んでいく予定である。

連携団体

園田農園、熊本農業法人協会維新会、一般財団法人くまもと未来創造基金、HARU・LABO、子どもから地域へ拡がれネットワーク TSUDOU・NET 熊本、熊本市男女共同参画センターはあもにい、フードバンク熊本、フードバンクひのくに、NPO 法人子育てネットワークわ・わ・わ、熊本市東区まちづくりセンター、熊本転入ママの会くまてん、Yell チャイルドマインダー熊本の会、シンママ応援団、ハッピーパーク多胎児サークルダブルハッピー、寺子屋カフェ など

問い合わせ

		 or 
engawamoyai@gmail.com	09079248902 (担当者氏名) 久保	「縁側 moyai」公式 HP、 Facebook、Instagram あり



NPO 法人子育て支援ワーカーズペペペらん

活動を始めのきっかけ/活動概要

核家族化した子育てが電子メディアによって変化するなか、乳幼児からの言葉環境が歴然と悪くなっています。子どもたちの健全な育成は、乳幼児期から始まります。大人がしっかりと関わることが人間の子どもを人間らしく育て上げていきます。それらのことを知ってもらうことで、真の意味での豊かな子育てをサポートすることを目的とします。

重点的に取り組んだこと/成果

今年度も新型コロナウイルスの収束が見られず、行き場のない親子の助けになれるように取り組みました。お子さまと一緒に参加され、お母さんの表情も明るくなって帰られる様子が見れて良かったと思えました。しかし、感染に気を付けておられるのか、参加が少ない時期もありました。絵本講座はテーマに沿った絵本についてと題し、ボランティアで読み聞かせに行かれる方の参加が昨年より増加しました。

課題/解決に向けての取り組み

育児休業中の参加がほとんどで、1才前後には保育園へ行かれる状況です。0才のお子さまの参加が中心になっていますので、内容も年齢に応じた対応となってきます。育児に役に立つ内容をこれからも開催していき、広報（SMSの活用）にも力を入れていきたいと思えます。

今後の展開

子育てを笑顔で楽しくできるよう手助けをしていきたいと思えます。

連携団体

特になし

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
mail@pepepeperan.com	096-337-0450 椎葉 信子 (担当者氏名)	pepepeperan_books

ここサポ

活動を始めるきっかけ/活動概要

ここサポは、学校外でもグチャや困りごとを気楽に話したり、親も子も安心して過ごせるような居場所作りを目指して結成。3年目となり、スタッフ主導ではなく“参加者が作り上げる場”をコンセプトに「出会い」「性教育」「原体験」を柱に活動している。東区の公民館や保育園で「みんなの居場所うちらんちよかよか」を月2回(第2・4日曜日)実施しました。



〈遊び場〉



〈ママカフェ〉



〈ハロウィン〉



〈性教育〉

重点的に取り組んだこと/成果

・今年度は「うちらんち」を知ってもらうきっかけ作りとして体験型のイベントを精力的に行い、市内外から多数のご参加をいただきました。収束の見えないコロナ禍で行事の縮小や中止が続く中、子どもも大人も心から楽しんで帰っていかれる姿が多く見られました。イベントを契機に繰り返し来場される方や、「いつも楽しみにしています」と長時間の滞在も増え、参加された方同士での交流や、お兄さん、お姉さんが小さな子の相手をしてくれるなど、うちらんちならではの自然で温かい関わりがたくさん生まれました。

・不登校や行き渋りのお子さんを持つママのための“おしゃべりママカフェ”を登校渋りが多くなりやすい時期に複数回実施。過去に不登校だったボランティアの高校生や大学生が体験談を聞かせてくれ、ママ同士が共感し合え、来てよかった、話せてよかったとの声があり参加者の笑顔が多く見られました。

・昨年度に引き続き、潜在的ニーズの高い性教育を4回のシリーズで実施。興味があったけど知る場所がなかったという方とつながることができ、当事者の話を聞くことで「性」の知識だけでなく“生きること”について子どもや保護者さんと一緒に考え学ぶ貴重な体験ができました。継続して実施することで、他の団体からの視察にもつながりました。

・来やすさを重視して予約制としないことで、毎回参加者数の予測がつかず準備が難しい面はありますが、予約がいらないから気軽に来れたという方も多く、子ども達の遊び場として、また保護者さんの思いを受け止める場所の一つとなることができます。

・活動も3年目となり、子どもだけでなくうちらんちを楽しみに来てくださる地域の方も増え、子ども達・ボランティアの高校生や大学生・大人の方々と幅広い年代が集まり、のんびりおしゃべりや遊びを楽しめる場所になっている。活動の告知や報告を見てお手伝いや寄付をして下さる方もおり、地域の温かい支援も感じています。

課題/解決に向けての取り組み

- ・スタッフが少なく、企画、広報、物資の運搬など個人の負担が大きい。
- ・開催場所の公民館に駐車場がなく、利用に躊躇される面がある。2か所で開催している為、かえって利用しにくい状況がある。
- ・公民館を子どもだけでは利用しづらく、子どもだけでも参加できる施設を検討したい。
- ・開催場所を見なおし、利用しやすい、参加しやすい場所を確保していく。継続的に参加できるボランティアスタッフの確保を積極的をお願いしていく。

今後の展開

・より地域に根付いた活動になるよう健軍商店街で開催し、参加しやすい場所でみんなの居場所作りを継続していきたいと思っています。

連携団体

せいしとらんし熊本、逢桜の里、志成館高等学院、カトリア保育園、発達障がい者・家族の会プリズム、TSUDOU.net、フードバンク熊本、泉ヶ丘・若葉校区子育て支援ネットワーク



〈マジック体験〉



〈夏祭り〉



〈野外食事作り〉

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
cocosapo2020@gmail.com	090-7153-4009 (松元)	Instagram:uchiranchi2020 Facebook:@cocosapo2020

学校法人熊本YMCA学園

活動を始めるきっかけ/活動概要

「子育て広場わいわい」との名称の下、子どもと共に外出する機会が少ない0歳～3歳までの乳幼児と保護者が、気軽に様々な分野の活動に参加することを通して、社会との繋がりを持ち、子どもと共に、楽しい時間を共有することで、子育てがより充実したものとなることを目指し活動に取り組んだ。活動を進める上で、熊本YMCAに繋がる様々な専門性を持ったスタッフや学生、留学生等が協働することにより、独自の子育て支援の場の提供を目指した。

○中止した事業：親子触れ合いリトミック（7月予定→中止）
子育てサロン（中止）

○実施した事業：◎子育て広場わいわい 親子で遊ぼう

・2022年9月8日（親子4組・計10名）

◎子育て広場わいわい ベビーマッサージ（当初の予定を延期し実施）

・2023年1月11日（水）（親子2組）

◎子育て広場わいわい 小さな国際交流（1/20時点実施予定）

・2023年1月25日（水）（留学生9名／中国・台湾・ベトナム・フィリピン）

熊本YMCAに集う若者（学生）との交流も含め、子育て広場を開催したいとの思いから、夏に設定したが、コロナの感染拡大のため、昨年度に引き続き、延期、中止とした事業があり、その調整が困難であった。特に、保育、子どもに関わる人材が、保育現場の対応に追われ、なかなかスケジュールを組むことができず、実施のための人材確保に難しさを感じた。



保育を学ぶ学生だが、入学式も開催できなかった世代であり、子どもたちと触れ合う機会が極端に少なく、保護者の方と触れ合いは初めてだった。そのためとても緊張していたが、子育て中の母親との交流は、貴重な経験になった。

重点的に取り組んだこと/成果

親子が安心して過ごすことができる場所の提供を心掛けた。また、遊びの内容としては、自宅で気軽にできる、親子遊びの提供を行うことを心がけた。今後はさらに、この2年間で培った技術（動画配信等）や、新しい取り組みについても検討していきたい。昨年度同様、他県のYMCAが実施しているオンラインでの子育て支援の情報を積極的に伝えることも行った。また、保育者の質、不適切な対応について問題になる中、保育者を目指す学生が、安心して現場に巣立っていき、今後、自らも保護者となる夢と希望を抱ける機会になることも、大切に取り組んだ。

課題/解決に向けての取り組み

当初予定していた、集い、語り合うサロン形式の集まりは、夏の感染拡大の影響を受け、実施することに大きなためらいが生じ延期を検討。しかし、担当者の所属先職員に罹患者が出て担い手不足のため、このコロナ禍での開催は見送ることを決定した。今後は、この2年間で大きく進化したオンラインツール等を使い、オンラインでの交流会などを開催するとともに、同じ時間を過ごす大切さも残していきたいと考える。一方で、留学生の入国は通常に戻りつつあるため、久しぶりに留学生と子どもたちの触れ合いを実施することができそうである。昨年度から引き続き、感染対策を行いながらの運営になるとは考え、ある程度見通しを持った運営計画を心掛けてきたが、突発的な事柄に対応できるスタッフが不足し、活動計画、運営を行う人員が割けなかったことが、今年度も課題として残った。戦争やコロナなど、大きな不安を抱える社会情勢の中で、子どもたちが笑顔で育ち、それを育む保護者も余裕を持つことができるために何をすべきかより考えを深め、対応できればと考える。

今後の展開

この2年間、現場で新型コロナウイルス感染症の対応を行いながらの子育て広場の開催は、担当者にとって大きな負担であった。その一方で、産後すぐから、他者と接触する機会が極端に減り、いつまでも行動制限に気を遣い気軽に集いに行くことができなかつたが、それよりも、多くの人と関わる機会を子どもと得たいとの声が今年度、保護者の声としていただいた。特に、留学生など、海外の人と触れ合うことは、より難しくなっている現状があるため、大きな期待を寄せられていると感じている。今年度、ようやく留学生の入国も通常に戻りつつあるため、今後も引き続き、体制を取りながら、気軽に、子どもの成長を喜びあえる取り組みを続けていきたい。

連携団体

特になし

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
suizenji@kumamoto-ymca.org gakuin@kumamoto-ymca.org	096-362-4141 (担当者氏名：西本 愛)	

(3) こども食堂に関する活動

桜木東食堂 陽だまり

活動を始めるきっかけ/活動概要

桜木東食堂陽だまりの運営は、桜木東校区社会福祉協議会が、運営しています。活動のきっかけは、具体的に校区の町民に社会貢献出来る事とは、検討している時に新聞紙上に、子どもの貧困、ヤングケアラー、大人の孤立、巣ごもりの記事が多く出ていました。子ども食堂を校区に1箇所創りたいとの記事を読んで、需要があるのではと、桜木東校区に社協が開設しました。

桜木東校区で校区民の為に、社会貢献活動として活動しています。

現在は、毎月第2日曜・12時より13時の間テイクアウトで、カレー弁当を提供しています。

(100食)

最近10月よりイベントをして、交流を深める促進をしています。

(例)

10月は、抽選会(景品は米・ゴミ袋・ランタン)・11月も抽選会・12月はクリスマスバージョンでサンタ・トナカイが登場してプレゼント渡し・1月は正月バージョンでぜんざいを振る舞いました。イベントは交流を深めて、名前と顔を覚えて、心を開いて交流できる環境作りを目指しています。

重点的に取り組んだこと/成果

上記のように「食」を通して、「コミュニケーション作り・集いの場作り・相談の場作り」を目指して、心を開いて交流できる環境作りを目指します。「食・イベント」の活動で、心を開いて交流できる環境作りが出来そうです。

課題/解決に向けての取り組み

現在、子どもの孤立・孤食・ヤングケアラー・ひとり親家庭・大人の巣ごもり・孤立現象が見えてないことが課題です。陽だまりの活動継続で、徐々に見えてくるのではと考えています。

今後の展開

桜木東食堂陽だまりの開催活動で「コミュニケーション作り・集いの場作り・相談の場作り」の目的が段々と、見えてくるのではと考えています。各世代のコミュニケーション作りが出来、互いに助け合い、明るく笑顔溢れる桜木東校区になれば幸いです。

連携団体

現在は、桜木東校区社会福祉協議会が主催です。連携団体は・自治会・体協・まちづくり会・公民館・青少年健全協議会・防犯協会・桜木東地域コミュニティセンター民生児童委員会・交通安全協会・桜木東小学・桜木中学校・子ども会・桜木東小学PTA

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
	090-3883-1185 福本廣人	

フードリボン（旧夢食堂）IN どんぐりの森

活動を始めるきっかけ/活動概要

日本の子どもの7人～8人に1人が貧困で充分にご飯を食べることができないことを知り、少しずつでも安心して食事できる場所を提供することはもちろんですが、地域の子どもたちのよりどころになればという思いでスタートしました。

重点的に取り組んだこと/成果

コロナ渦で家計的に厳しい家庭が増えていますので、卵やお米の配布活動を行いました。子どもたちを見ていて、おなかだけでなく心も希望を持てるような取り組みが大切だと感じています。クリスマスケーキの飾りつけ大会、かき氷大会、音楽会など子どもたちが楽しいと思ってもらえるような取り組みを重点的に行っています。

かき氷大会の様子①



かき氷大会の様子②



クリスマスケーキ飾りつけの様子①



クリスマスケーキ飾りつけの様子②



クリスマスケーキ
飾りつけの様子③



課題/解決に向けての取り組み

HP を作成し、Facebook や LINE などの SNS で活動記録や案内などを告知しています。その効果があり、LINE と HP から申し込まれる方が増えてきました。今はまだフードリボンの存在を知らない、本当に困っている子どもたちが安心してご飯を食べられるように、今後も周知活動을続けてまいります。

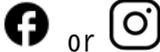
今後の展開

今後も子どもたちがおなかいっぱいご飯を食べられるように、食事もしくはお弁当の提供を行っていきます。子どもたちが楽しいと思ってもらえるようなイベントも開催しつつ、食の楽しさを知ってもらえるよう、食育活動も併せて行っていきます。

連携団体

子どもから地域に拡がれネットワーク
フードリボン協会
子ども食堂「きずな」

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		
info@sunfarm.co.jp	0964-28-3300 (担当者氏名) 堀田朋代 松岡怜佳	

子どもが生きられる世界【ゆりりん食堂】



活動を始めのきっかけ/活動概要

もと保育者が『子どもが生きられる世界』を未来の子どもたちの土壌として育みたいとの願いをもち子ども食堂という視点から子育て世代の新しいカタチのコミュニティをつくる事を目的として始めた。今だからこそ子どもに伝え育てたい『支え合い助け合い思いあう知恵を出し合う相生の心』を、大人の在り方でみせることで伝えていこう!!をテーマに毎月1回の子ども食堂を開催している。子ども食堂開催日に合わせて腹話術での食育/挨拶の大切さ/あそび場を提供しながら子育ての現状をつかみ親の心に寄り添っていくことで心と心の繋がりを育んでいる。

重点的に取り組んだこと/成果

『楽しいココロ』を感じてもらうこと。こんなことをしたら楽しいんじゃないかな?と思う事をいつも意識してきた。夏祭りや、餅つきという大きなイベントはもちろんのこと、毎回、必ずオープン時間にあわせて遊び場を開放し子どもがここで遊びたいな…なんだかここに来るのが楽しいと思える場の雰囲気づくり、親がふっと心を開放できる瞬間を感じてもらえるように心がけた。そのうちに親ごさんが受付や配膳を手伝ってくれるようになったりそれを見た小学生が自然と面白そうと手伝ってくれるような空気感、まさに『相生の心』づくりが垣間見られるようになった。また普段の食生活が添加物肉中心ではないかと考え、野菜中心に弁当を提供すると好き嫌いの多い子どもが野菜を食べたという親からの感想が届くようになり子どもたちからゆりりん食堂のお弁当が食べたい声が聴かれた。

課題/解決に向けての取り組み

- ボランティア不足→声かけをしてお手伝いを常に呼び掛けている。しかしながら、自宅開催という事もありたくさん的人数に声をかけることも簡単ではない。
- 場所の確保→こじんまりと癒される空間の中での居心地の良い食事時間を親子で共有して欲しいが自宅開催の人数限界がある。弁当配布ならこのままでも大丈夫だが、来年度は会食開催時の参加人数がどうなるのか?試してみたい。(駐車場問題も大きい)▶駐車場を借りるようになりたい

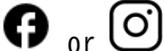
今後の展開

4月からは子ども食堂2年目となるので、1回1回を大切に開催していくことを大切にしたい。又野菜中心メニューを継続していくために、野菜農家との連携を繋げていきたい。子育て応援の仲間を増やし子ども食堂に限らず子どもが生きられる世界応援事業展開ができればと願っている。

連携団体

●一社熊本県子ども食堂ネットワーク●東区まちづくりセンター●山之内民生委員・児童委員●山之内小学校●HAPPYPARKプロジェクト(つながる居場所相談)●東区土木センター●走潟食堂●子ども食堂きずな●フードバンク熊本●子どもから地域へ拡がれネットワーク

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		
yoshinoppi0323@gmail.com	080-5260-0323 (担当者氏名) 百合本泰朗・ 百合本佳乃	yuririn0323【子どもが生きられる世界】

認定NPO法人ポピンズくまもと-only connect-

活動を始めるきっかけ/活動概要

2020年4月のコロナ禍の休校中に、地域の保護者の方々からの不安のSOSに応える形で、お弁当配りからスタート。2021年6月からは地域の店舗を借り、食堂形式に。現在は月に2回、土曜か日曜日に開催。LINEでお友達登録をしてもらい、その後はLINEで開催日等の情報を発信している。Fu-Rin堂の厨房を借りてお弁当を作り、配布。同時に食育として、毎回子どもたちにデザートを自分でつくってもらうなどのワークを開催。地域の農家や、地域の老人会の方々が作るお野菜のご提供をいただいた、旬のお野菜や果物を使って自分たちでも簡単にできるデザートづくりは好評で、回を追うごとに利用者が増え、現在では2つの小学校区から子どもたちが参加している。また、屋外で実施しているため、通りかかった方々が関心を持ってくださり、地域の一人暮らしの老人も参加するようになるなど、地域食堂として、地域の方の居場所になっていることを実感している。当初30食から始めたお弁当も、来場者が増え、短期間の間に、50食から70食を配布するまでに拡大した。子どもたちがゲームから離れ、集う場所があることを保護者も喜ばれ、子どもたちも、毎回のワークで、これまでに経験のないことを、体験する楽しさを感じている様子である。また、保護者の悩み相談にも対応。情報を伝えることで、「話してみてもよかった」の声も聞かれている。

重点的に取り組んだこと/成果

今年度はこれまでの地域食堂の活動に加え、個別の家庭に必要な物資を届ける宅配事業も行った。特にコロナ禍では、家族で感染されたご家庭への支援物資配達も行い、「今、困っている」のニーズに応えるべく、スタッフが迅速に動くことを心掛けた。結果、大変喜ばれ、その後も繋がっている。

課題/解決に向けての取り組み

厨房の場所が狭いのと、予算の都合上30食を作るのがやっとであるが、希望者が多く、実際には50食から70食の提供を行っている。予算の問題に関しては、母体が認定NPOを取得したため、各企業と提携した支援を目指していきたい。

今後の展開

今後はアウトリーチにも力を入れ、「地域で繋がる」支援を継続していきたい。

連携団体

子育てRebornプロジェクト



↑クリスマス会。バンド演奏を聴いているところ♪



←毎回大好評のおやつ作り。

問い合わせ

✉	☎	f or 📷
pk.only.connect@gmail.com	070-5274-0762 (担当者 藤山)	https://www.facebook.com/pk. only.connect/

パティオ



活動を始めるきっかけ/活動概要

現在、県営東町団地は高齢化が進み、独居の方や障がいのある方の入居も多い状況です。また、東町校区全体も、共働き世帯や、ひとり親世帯、貧困で生活が困難な世帯もある状況です。そのような世帯や、子ども、高齢者を対象に「孤食や孤立の予防」、「食育推進」、「安心できる居場所づくり」を行いたいと思いました。

また、学習支援については、学習習慣を身に付けてもらい、学力向上のみでなく、高校生や大学生と一緒に学習し話をする事で、進学への具体像を描いてもらい、学習や将来(進路など)への意欲の向上に繋げ、信頼できる大人(学生含む)とのかかわりによって、くつろげる居場所をつくってもらいたいと思いました。

重点的に取り組んだこと/成果

《子ども地域食堂》

- 1) 毎週2回(水曜日と金曜日)に軽食(うどん・そば・カレーなど)を安価で提供し、毎月1回(第3土曜日)、お弁当の提供を行いました。
- 2) お弁当配布時に食材などの寄付物資を提供しました。
- 3) 番外編で「パティオの秋まつり」と題して、10月に屋外で焼きそばの提供、移動販売による団子やパンの販売を行いました。
- 4) クリスマスには、シェフ(ホテル熊本テルサ)考案のメニューでお弁当を提供しました。
- 5) 毎月広報紙を作成し、東町団地や近隣住宅にポスティングを行いました。

◆◇ 成果 ◇◆

ポスティング効果なのか、少しずつ認知され、毎回参加者が増えています。それに伴い、食数が増えています。参加者から「おいしかった」「量がちょうどいい」「月2回に増やしてほしい」などお声をいただいています。屋外イベントも団地では久しぶりで大盛況でした。

《学習支援》

- 1) 8月から、毎月1回(第3土曜日)14:00~16:00、学習支援を行いました。

◆◇ 成果 ◇◆

まだ参加者は少ないですが、喜んで参加されています。



クリスマスのお弁当



番外編「パティオの秋まつり」



学習する子どもたちと職員

課題/解決に向けての取り組み

【課題】

当町内には子供会がなく、近隣に小学校があるもの子ども達の利用が少ない状況です。東町小学校のひなんの家にも協力しているため、少しずつ子どもたちの利用に繋げたい。

【取組み】

東部まちづくりセンターに相談し、東町校区 2 町内・3 町内・5 町内・6 町内・7 町内、東町コミュニティセンターに広報紙(子ども地域食堂と学習支援の情報を含む)を配布してもらうことに成功した。

今後の展開

- 1) 少しずつですが参加者も増えてきていますので、食数や回数も増やしていきながら、今後も子ども地域食堂・学習支援を継続していきたい。
- 2) 現在、コロナ禍のため、毎月第三土曜日にお弁当を提供していますが、落ち着き次第、会食形式にして、孤食や孤立にならないよう、居場所づくりに力を入れたい。
- 3) ひとり親家庭や生活が困難な家庭の方に、食材などの物資提供も増やしていきたい。
- 4) 学習支援については、コロナ禍で学習支援のボランティアを募ることができなかったで、今後は、大学生や高校生、講師経験のある方などのボランティアを受け入れ、学習できる環境を整えたい。

連携団体

- ・とうや医療福祉グループ（医療法人清和会、社会福祉法人百八会）
- ・東町校区自治会（1 町内・2 町内・3 町内・5 町内・6 町内・7 町内）
- ・東町地域コミュニティセンター ・熊本市社会福祉協議会東区事務所
- ・熊本県地域福祉課 ・熊本市子ども政策課 ・東区役所保健子ども課
- ・東部まちづくりセンター ・秋津まちづくりセンター ・JA 熊本市女性部会
- ・熊本県ひとり親家庭福祉協議会 ・高齢者支援センターささえりあ尾ノ上
- ・(社)熊本県子ども食堂ネットワーク ・TSUDOU・NET 熊本
- ・NPO)全国こども食堂支援センターむすびえ ・(社)全国食支援活動協力会

問い合わせ

		 or 
higashi-kouryu@108kai.com	096-285-4800 (担当者氏名 橋本・春木)	—

きずな

活動を始めるきっかけ/活動概要

子どもから大人まで地域のつながりを深めていきたい、町を良くしたい、子育てを終え少しでも地域に恩返しが出来たらという思いで活動を始めました。

重点的に取り組んだこと/成果

学習支援、多世代交流の場所作りに取り組み地域の方々の交流、不登校、引きこもり児童が登校し、将来の目標を持つようになりました。

課題/解決に向けての取り組み

お悩み事や問題点の早期対応が出来るようにします。地域の方々や各団体と繋がり連携していきます。

今後の展開

多世代の交流、居場所作り、利用者さんとのコミュニケーションを取り寄り添った活動をしていきたいです。

連携団体

フードバンク熊本、自治会、子ども会、民生委員、社協

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
kizunakodomo@gmail.com	090-8627-2538 (担当者氏名) 成松美恵子	



子ども食堂「だんらん」(NPO 法人くまもと相談所)

活動を始めるきっかけ/活動概要

一人の女の子との出会いです。小さな身体で色々な課題を抱えている姿に、自分自身、何かできることはないか考えました。

その時できることといえば、その子が我が家に子どもを迎えに来てくれていたので「一緒に朝食を取る」ということでした。その延長で、今の活動があります。

重点的に取り組んだこと/成果

まだまだ「コロナ感染」が続いておりますので、感染対策を行いながら、子ども食堂に来てくれる子どもたちとの会話（コミュニケーション）を意識しながら活動しております。

課題/解決に向けての取り組み

去年に引き続き、地域の皆様、企業様よりたくさんのご寄付をいただきましたが、管理する場所が確保できず、提供いただけるお話があっても、保管場所が確保できないために、手を挙げる事ができないことも多々ありました。

現在は、月1回のお弁当の配布がメインとなっておりますが「子ども食堂をやりたい！」と思われている皆さまのご協力をいただきながら、いつの日か、地域に「子どもの居場所」を設置したいと思っております。

今後の展開

上記にも記載したとおり「子どもの居場所兼地域食堂等」を開設したいと思っております。地域の空き家などを使わせていただければと考えますが、リフォーム代、環境整備、人件費等々、クリアしなければならない問題も山積みですが、いつか、地域食堂の収益で子どもたちへ無料で食事の提供ができるように運営できればと思っております。

連携団体

・地域の皆様・校区社協様・企業様・子どもから地域へ拡がれネットワーク、
フードバンクママトコ、熊本県・熊本市

問い合わせ

		 or 
kuma2soudan@gmail.com	080-2784-3661 担当：山口	



Yell つながるカフェ

活動を始めるきっかけ/活動概要

2014年6月子育て支援団体としてYellチャイルドマインダー熊本の会を発足。主に就園前の子どもの持つ親子を対象にして集う場を作り子育て支援活動を実施。その活動の流れから、食を通したコミュニケーションの場を作り、子どもの育ちの支援・親子支援を行うことを目的とし、2017年9月より子ども地域食堂「Yellつながるカフェ」を開始。

毎月第1もしくは第2木曜日の11時～14時開催。夏休みと冬休みには各1回ずつ追加開催、夏祭りやおもちゃづくりワークショップを実施している。

重点的に取り組んだこと/成果

●昨年度コロナにより調理施設が使用できず、パントリーのみ行った時期もあったが、その時に参加した親子との会話・接する時間が少なく状況把握もしにくい、と感じた。今年度は子ども食堂への生鮮品やお米の寄付も増えてきたこともあり、コロナ禍でも調理できる施設にて、最低限でもお弁当と食品の配布、手作りおもちゃキットのお渡しを毎月実施した。調理方法を話したりし親子の滞在時間を延ばし会話の時間を作ることで育児の困りごとの有無・母親のメンタル面の様子観察などを行うことができた。毎回利用される方は近況を話してくださるようになり、信頼関係の構築もできている。

●子ども食堂利用者に対する各種イベント支援も増え、その情報はYell公式LINEにて拡散した。中でも演劇やコンサートなど文化に触れるイベント招待等の支援は、コロナ禍で行動制限され、いろんな体験ができない子どもたちにとって、貴重な時間を提供できたと思う。



●初めて食堂を利用される方からの「生活が苦しいので食品をもらえるものはありませんか？」や「今日の夕飯が食べられる子ども食堂はありませんか？」などの問い合わせがあった。それに対しては個別対応しフードドライブの食品や保存食をお渡ししたが、生活が本当に厳しく子ども食堂では対応できない、と思われるケースがあり、生活困窮者支援を行っている団体へつなぎ、適切な対応をとっていただいた。（後日きちんと報告もあった）

自食堂は食を提供することはできるが、経済的な問題や生活相談に関して専門家はおらず、対応が難しいため、専門としている団体や行政とつなぐ必要性を感じた。「子ども食堂」は生活に困っている方が相談する場所としては、敷居が低く相談しやすい場所だということがわかり、社会福祉士などの専門職や支援団体とつなげていくことで、より早く適切な対応ができると思う。

●子ども食堂ネットワークの交流会で、市内の子ども食堂を転々と回り、生活苦を訴えパントリーを受け取っている家庭があるとわかったこともある。これに対しては、住居に一番近く、連絡の取りやすい食堂から聞き取りをしてもらい、生活困窮で公的な支援が必要であるとわかった事例もある。子ども食堂同士が交流を行い連携することも効果的だと思った。

課題/解決に向けての取り組み

上記のように、コロナによる経済的負担が増えた家庭、心理的にストレスを抱えた家庭は相変わらずあり、より深刻化していると思われる。子ども食堂は相談しやすい場所としても継続実施が必要である。また、経済的貧困ばかりでなく、コロナ禍において地域での行事（人が集まるような夏祭りなどのイベント）が自粛・減少し、子どもたちの様々な経験・体験が不足している。子ども食堂でも感染対策を行いながら、いろんな体験・経験ができるよう工夫し、イベントやワークショップを行うことで子どもが心身ともに健全な成長発達していく場を作れると思う。親子との信頼関係の構築により見えにくい問題の早期発見・適切な対応を行うことができると思われるため、相互コミュニケーションをとれる場づくりも引き続き行っていく。

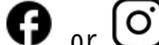
今後の展開

子どもの心身共に健全な成長発達のために、今年度は子どもの経験・体験の場を作ることを主にした子ども食堂の展開を考える。自分で作り食べる、家族に食べさせる喜びを得る。親子で体験型の回数を増やす。みんなが一緒に作業することで、仲間作りにもなり孤立しない子育てができる。ママ同士のつながりの場を作り母親の心の安定が保てるよう支援を行うことで、家庭環境の安定、子どもの成育環境が良く保たれるよう支援を継続していく。また、経済的な問題を抱えている家庭も増えているため、それぞれの家庭の実情に合わせた支援を行う。必要であれば、行政機関や関連団体などへの連携を行っていく。

連携団体

一般社団法人熊本県子ども食堂ネットワーク
社会福祉法人熊本県ひとり親家庭福祉協議会
一般社団法人よか隊ネット熊本
その他、県内各地の子ども地域食堂

問い合わせ

		
Child.yell@gmail.com	090-9599-4788 (担当者氏名) 高井眞弓	https://www.facebook.com/Yell Eメール-1515125778706579/

熊本市西区中島校区こども食堂まんまる

活動を始めるきっかけ/活動概要

2020年8月に以下の目的で立ち上げ、コロナの影響により10月に実動開始。

●目的

- 1) こどもの居場所づくり（生活に困難を抱える支援を含む）
- 2) こどもと高齢者の孤食防止
- 3) 地域の交流の機会を増やし互いの絆を強化していくこと
- 4) その過程において地域全体で子育て、人育てを可能にしていくこと、子どもたちの自己肯定力や社会性を高めること、住民の自助力、共助力を高めることをねらいとしている。

●実施日 毎月第3土曜日に開催（月に一度）

重点的に取り組んだこと/成果

- 1) 感染防止対策をとりながら、会食ではなくお弁当を希望者に渡す形で実施した。
- 2) 今年度は、新たな取り組みとしてこども各町内の民生委員さんの協力のもと各町内の一人暮らしの高齢者に毎月のお弁当の注文からお届けまでを担って頂くことができた。民生委員さんと食堂のボランティアスタッフが一人暮らしの高齢者の住まいと顔を把握することで有事の際の支援に繋がると考えている。
- 3) 地域での世代間や学びの機会の創出までは至らなかったが、感染者や食中毒等、問題が起きずに安全に開催できたことが成果。
- 4) 毎回、多くの新鮮でおいしい食材の寄付を頂き、それらの食材をどんなふうを活用しておいしく健康的に食してもらおうか彩りも含め工夫しながらメニューを考えた。参加した子ども達も保護者も高齢者もおいしくてバランスのよい食事に喜んでいただいた。

課題/解決に向けての取り組み

感染防止対策が課題であり、安全確保のため収束まではお弁当を希望者に渡す形で実施する。

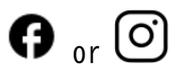
今後の展開

- 1 まずはコロナ感染予防対策。
- 2 民生委員さんとの連携をより強化していく（全町内）
- 3 状況を見て活動目的でもある世代間交流や学びの機会の創出を提供していきたい。

連携団体

- ・熊本市こども食堂ネットワーク・フードバンク熊本・大海水産株式会社（魚の提供）
- ・有限会社矢野畜産（肉の提供）・有限会社マルイシ青果（野菜の提供）・有限会社福島商店
- ・JA中島支店・地域の農家さん

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		
nakashimakodomo@gmail.com	090-5323-5102 清水さとこ	https://www.facebook.com/manmarunakasima

《令和4年度の活動状況》

毎回多くのボランティアスタッフと寄付の食材に助けられています。

民生委員さんのサポートが加わりさらにこども食堂まんまるが地域のために進化しています。



尾ノ上コミュニティ食堂「陽だまりの樹」

活動を始めるきっかけ/活動概要

共働きやひとり親世帯、一人暮らし高齢者の家庭が増え、子どもや高齢者の孤食が増えている。小学校の給食がない日や代休の日に、自宅に昼食がなく、お金だけ渡されコンビニや駄菓子屋などで買って食べる子どもも多い。

働く親にとっても、朝から子どもの昼食を準備して仕事に行くのは負担が大きく、そのような親の負担を減らすためにも、みんなで集まって楽しく温かい食事をしてほしい。

また、子どもたちと一緒に食事の支度や、おやつ作りをすることで、食に関心を持ち、きちんとした食事をとることの大切さを教えていきたい。

放課後や学校が休みの日に一人で過ごすのではなく、友達と一緒に食事したり遊んだりする居場所でありたい。

ひとり親世帯の大変さはもとより、昨年度から今年度にかけてコロナで収入が減った世帯も多く、また孤食を少しでも減らしたいとの思いがあり、誰もが参加できる「コミュニティ食堂」にすることで皆が気兼ねなく利用でき、子どもや高齢者が地域とのかかわりを深めていける場所にしたいという想いで始めました。

近年はコロナの影響もあり、持ち帰りのお弁当配布がほとんどになってしまっていますが、感染状況を見ながら、イベントや、学習支援も行っています。

重点的に取り組んだこと/成果

コロナの影響で、お弁当配布がほとんどとなってしまいましたが、感染が落ち着いた時期には会食を取り入れながら、子ども達とのコミュニケーションをとるように心掛けていました。

今年も夏休みの学習支援を行い、プロの画家の先生に絵画の指導をしていただいたり、学生ボランティアの方々に宿題を見ていただいたりしました。

イベントにも力を入れ、今年は秋祭りを京塚繁栄会と共同で開催。J:comからもボランティアに参加していただき、フードパントリーも行い、地域のつながりもたくさん作れました。

クリスマスには、縁JOYすまいるのお二人にも来ていただき、バルーンショーで盛り上がりました。陽だまりの樹が一番大切にしているイベント、普段子ども食堂に参加していない子供たちもたくさん参加するので、広報にもなっています。

月に一度、フードドライブ品などを応援セットという形で、ひとり親家庭や、生活困窮家庭にお渡ししています。昨年15世帯くらいだった登録家庭が、今年度は25世帯に増え、必要性も高まっています。誰でも利用できる食堂でありながら、支援の必要な家庭には少し厚めの支援を入れられる体制は今後も整えていきたいです。



課題/解決に向けての取り組み

昨年度の課題でもあった、運営資金の問題は、リーフレットの配布や、ロータリークラブなどでの講話をさせていただいたのをきっかけにご寄付などをいただき、お陰様で運営費には困らなくなりましたが、今後継続した収入などに繋がるものがあればと、収入の一部が寄付される自動販売機などの導入を検討中です。

また、開催場所が手狭になったのと、物資などを置くスペースなどを考えるとの拠点になる場所を探しているのですが、なかなか校区内に見つからず、引き続き考えていこうと思っています。

今後の展開

学習支援の回数を増やしていきたいけれど、拠点の確保を優先。いつでも子どもたちが集える場所を引き続き探していきたい。

連携団体

一般社団法人熊本県子ども食堂ネットワーク

フードバンク熊本

フードバンクひのくに

FamilyMart九品寺店

ささえりあ

きらきら星ゾデン

社会福祉法人熊本県ひとり親家庭福祉協議会てとてとて

生活協同組合熊本尾ノ上コープ

J:COM

京塚繁栄会

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
Ymymt223@gmail.com	090-4355-3320（堤雅）	尾ノ上コミュニティ食堂《陽だまりの樹》 Facebook

みんなの食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

一生懸命働いても生活がギリギリなんです・・・というご近所のひとり親家庭の方のお話を聞き、何か出来ることはないかという思いが活動を始めるきっかけでした。

活動の概要は、共助を必要としていらっしゃる方の手助け・子ども達に食に関する興味を持ってもらうこと・孤食防止・地域の幅広い方々の交流の場の提供などを活動の目的としたものです。

重点的に取り組んだこと/成果

今年度は、年度初めに掲げた課題に向けて、子ども食堂を少しでも多くの方に知っていただく事、そしてまだ子ども食堂の存在を知らずに頑張っている共助が必要な方に会うこと、また、一人暮らしのご高齢の方の支援などを意識して活動に取り組みました。

なるべく SNS に頼るのではなく、校区内での違う場所での開催や、参加しているご家庭を通じて、または、スタッフの方の知り合いや会社の方を通じて人と会う方法、学生さんが通う飲食店の方の協力を得て、学生さんが持つ子ども食堂のイメージや認知度を調査し、学生さんへの支援もしていることを伝えたりと、直接伝える事を大切に活動しました。

その結果、共働きで（奥さんはパート勤務）必死に働いているが、低賃金で余裕が無く大変だというご家庭や、子ども食堂を知らなかったひとり親世帯の方々、コロナの影響で親からの仕送りが無くなり大変な学生さん等、共助を必要としている方々と繋がる事ができました。「自分たちが参加して良いのかわからなかったので、声をかけていただき助かりました。」と昨年と同じ言葉が返ってきて、まだまだ潜在的に共助が必要な方がたくさんいらっしゃるのだろうと実感し、次年度の課題も見えました。

4月は楽器を使った音楽会を行いました。コロナが長引き家に居る事が多くなっていた時期が続いていたので、春の訪れと共に外に出て音楽を楽しめる音楽会は大変喜ばれ、気持ちが明るくなったとたくさんの方の声をいただき、音楽や季節の持つ力を改めて強く感じました。5月はジャガイモ収穫体験とお弁当パントリー。これも土に触れて収穫する事をみなさん楽しんでいました。6月は防災食作りとパントリー。忘れてならない防災の勉強を知識だけでなく、防災食を作ったり、子ども同士のグループで話し合いどうして逃げれば良いかななどの意見を出し合い楽しく学びました。8月は学習支援や夏休みの工作企画、9月はプログラミング教室や学生支援、10月はハロウィン秋祭り、12月は声楽家の方のなまの歌声を聞ける貴重なクリスマス音楽会となり、参加した方々からは本格的な声楽家の方の声を間近に聞き「迫力があつた」「なんか胸が熱くなった」「涙が出ました」と心に響く体験となりました。このように、今年度はできる限り子ども達が体験、経験できる事を意識して行いました。奇数月は、みんなの食堂応援ご家庭（ひとり親世帯、コロナで家計が大変なご家庭、一人暮らしのご高齢者、ご事情があるご家庭）に弁当の配布やパントリーを行いました。また、月1回行う他団体との連携で、子ども達が自然豊かな五木村を知り交流もできました。



楽器を使った音楽会 ジャガイモ収穫 防災食作り 夏休み工作



クレープ作り 学生支援 プログラミング サンキャッチャー作り 音楽会

課題/解決に向けての取り組み

本年同様、潜在的に共助を必要とする方々に繋がるように動きたいです。また、急激な物価の上昇の為、生活が苦しくなっているご家庭に簡単で安く出来るレシピの提供や、一人暮らしのご高齢の方から「たくさん作らないと美味しくない料理もあるし、みんなで作りみんなで食べたい」という声があがっていますので、コロナの状況を考慮しながらみんなで作れる場も設けていきたいです。

今後の展開

アフターコロナといわれていますが、変異株は次々と出てきます。やれることを、安全に気をつけてやっていくしかないと思います。

昨年同様に臨機応変に対応して子ども食堂の運営をしていきたいと思えます。

連携団体

逢桜の里、フードバンクひのくに、キッズネットちゃとわ、たくにしきずな食堂、託麻西自治会、たくとう子ども食堂、楡木子ども地域食堂なごみ

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
Fan1515minnna@gmail.com	090-5295-3170 (担当者) 齋藤	minnanoshokudo

縁側サロン竹ちゃんち

活動を始めるきっかけ/活動概要

予てより、自宅を開放して親子の居場所を開設している。核家族化が進むなか、子育て世代と地域との繋がりが必要と感じ、多世代が交流出来る場所の1つとして間口を広げ、7年前より子ども食堂として開設している。2022.12月より、西区の2拠点目を開設した。高齢者と若い世代の人達が混在する地域において、繋がりが少ないことが地域の方々からの声を数多く聞く。2拠点において共通の課題が見えてきた。第1,3,4水曜日、土曜日と、基本月に6回開設している。

重点的に取り組んだこと/成果

コロナ禍で支援を必要とされる子育て世代やひとり親家庭、高齢者の利用が多くなった。会食が難しいと言われるなか、弁当による食支援は増えたが、ゆっくり会話をする時間が逆に少なくなったので、少人数であっても会食は続けてきた。また、公式ラインを開設した。支援の情報発信や、リアルに話せないときでも時間が出来たときに個別に話が出来るようになった。その家庭の様子などがライン会話を通して知ることができた。会食においては、毎回利用される親子さんも居て、毎回他のお母さん方と交流出来ることが嬉しく、孤立しない育児に繋がっていると感想がある。

課題/解決に向けての取り組み

① 校区外のご利用が多いため駐車場の確保に苦慮している。② 間近な必要とされる方々へなかなか伝わらない。保健師さんや学校等との繋がりが交流意見交換等がなかなかすまない。解決に向けては、自身が地域の役割として民生主任児童委員、地域自治会役員を昨年より担っている。地域の方々への周知も課題と思い地域の昔から住んでいる方々を巻き込み情報の収集の1つになればと、お茶会等を開いたりしている。

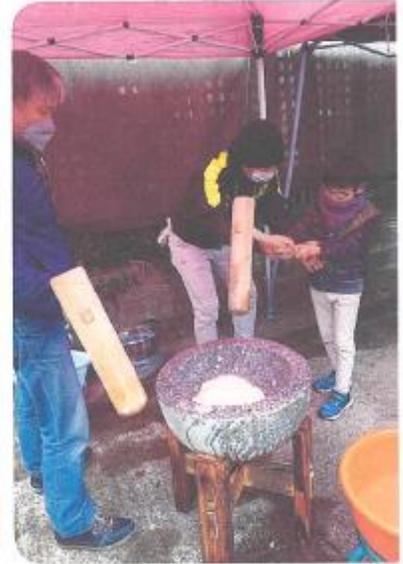
今後の展開

2拠点目の西区松尾地区において、2年目となるため拠点の周知と高齢者と若い世代が混在する地域なので、交流の場が無いと声が有るので、多世代が集える居場所として丸紅基金の助成を受け、駄菓子屋カフェスペースを開設する。食堂のオープンにプラスして月に4回~6回とし、いつでも利用でき学校休みの日も子ども達が楽しみに安心して遊びに来れる場所として開設する。5月半ばのオープンを目指す。

連携団体

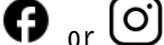
一社) 熊本県子ども食堂ネットワーク、フードバンク熊本、全国子ども食堂支援センターむすびえ、サイバーレコンド、全国食支援協力会、熊本県子ども食堂コーディネーター、熊本県ひとり親家庭福祉協議会、南区自治会、子ども会、老人会、ささえりあ熊本南、西区松尾自治







問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
Merimero0412@gmail.com	090-5726-2504 竹下紀子（担当者氏名）	Facebook.com/ouchiRanchi Facebook.com/kasanRanchi

ouchi 食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

保育園、老人ホーム、障害福祉施設での栄養士の経験を地域で活かし、子どもたちが個々に主体となる空間を『食』を通して提供し、食と文化を町の皆さんと楽しみながら継承したいおもいで活動しております。

- ・月1回 第三日曜日

重点的に取り組んだこと/成果

『子どもたちへ本物の体験を提供する』

- ・おもちつき/季節の手作りシロップかき氷

自分で作る綿菓子/釜炊きごはん

七草粥/進級お祝い弁当/寄贈夏野菜カレー

- ・なるべく寄贈のものを使わせていただきながら四季折々の素材の持つ色、香り、味わいが子どもたちの五感に響くような活動内容を企画しました

- ・温故知新、成り立ちの過程を大切にし、気づき、食を通して人生のルーツの獲得

『地域活動を次世代、福祉と繋ぐ』

- ・ボランティアが必要な時は、地域の学生さんや障害福祉施設にお願いをしました。

(ルーテル学院大学、ルーテル学院高校、熊本大学、100年ボンド)

・寄贈のお野菜、お菓子等の物資は地域の幼稚園、障害福祉施設、地域包括支援センター等専門機関と積極的に連携をし、多くの人に物資が行き渡るようにしました。

- ・かき氷のシロップ等の保存できるものは、慈愛園子どもホーム、陽だまりの樹さんにもお使いいただきました

『分散開催』

綿菓子リース機器は、前日は内坪井の福祉施設にも移動し綿菓子を開催

ouchi 食堂の開催後は、子飼地区の陽月堂へ出向き隣接する地域の方々とも連携をとりながら動く事で多くの方々へお届けすることができました

課題/解決に向けての取り組み

『住み続けられるまちづくり/つくる責任 つかう責任』

- ・活動を通して多世代とコミュニティしていく

- ・寄贈されるものも地域循環出来るよう

専門機関を通し必要とする方々に届くよう行動する

今後の展開

家族以外の小さな共同体を更に意識する。天災や疫病などの変動にも家族以外の顔見知りをボランティア、参加者、主催者側様々な立場から増やしていく

連携団体

坪井幼稚園、100年ポンド、ささえりあ子飼、坪井繁栄開催、ルーテル学院大、熊本大学
慈愛園子どもホーム、壺川校区15町内自治会

●進級お祝いお弁当 寄贈の天草大王、鯛で紅白弁当を作りました



●梅シロップ ポテトフライ



●かき氷



●自分で炊くごはん



●おもちつき 沢山の方にボランティアに来ていただきました



問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
eri.chaina@icloud.com	（担当者氏名）西館 枝里	

榆木子ども地域食堂 なごみ

活動を始めるきっかけ/活動概要

長期に渡る生活環境の変化に伴い、子供や高齢者の精神面や栄養の偏りが見受けられる。また、ひとり親家庭の保護者の心身の疲弊が著しく、多世代交流を通じた地域づくり・子育て支援が必要だと考えた。

—活動概要—

- ・体験教室食事会 19回
(食育・収穫・バケツ稲作り・夏祭り・ハロウィーン・クリスマス・餅つき・環境学習)
- ・子育て応援パントリー 18回
- ・地域食堂 14回
- ・学習会(夏休み) 7日間(小・中学生)
- ・学習会(平常月) 毎週土曜日計21回(中学生)
- ・榆木地域力アッププロジェクト 2回(7月・11月)
(防災体験・音楽フェスタ)
- ・COCO-DINING☆mama 2回(5月・11月)
- ・体験教室、学習会



・地域力アッププロジェクト、COCO^DINING☆mama、地域食堂、パントリー



重点的に取り組んだこと/成果

・出来る限りの感染症対策（施設環境・参加者への協力等）、食中毒対策（衛生面・危機管理等）を行った。

・ 楡木小5年生とバケツ稲づくりを実施、JA熊本市と協力し食農教育を行った。

・ 他子ども食堂と連携し、五木村を知る（五木源ツアー）とジャガイモの収穫体験を実施。

自然の豊かさや恵み、災害に対する意識向上を図り、家族の触れ合う時間が持てた。

・ 食品ロスを無くす為、食事開催時の残飯ゼロ対策や、パントリー時のフードドライブ、ゼロ円ショップへの意識の向上を図った。（保護者や地域住民から常に持ち込みがあるようになった）

課題/解決に向けての取り組み

・ 長期に渡る生活環境の変化に伴い、学力向上を目的とした学習会を行う。

・ 地域交流の場を作るために楡木地域力アッププロジェクトチームを結成し、子ども食堂、小学校、自治会、地元団体、地元消防団、地元企業、防災士と協働で防災イベントやフェスタを開催。みんなが繋がることで、地域力が高まり、暮らしやすい地域になる事を目指した活動を始めました。

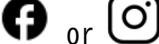
今後の展開

今後も共生型コミュニティづくりの為、企業（地元企業含む）・行政・自治会等・小学校・他の団体との連携により、安心・安全な子育てしやすい町づくり・地域づくりを継続して参ります。

連携団体

楡木地域力アッププロジェクトチーム（自治会・楡木小学校・熊本市消防団第54分団麻生田校区2部（楡木）・地元企業・楡木校区青少年育成協議会・楡木校区体育協会・よか隊ネット熊本・防災士）、民生委員、地域保育園、子育て支援センター、JA熊本市、フードバンク熊本、フードバンクひのくに、県北子ども食堂ネットワーク・きっずネットちゃとわ、COCO-DINING☆mama（逢桜の里・みんなの食堂・たくとう地域食堂）、楡木スリーボッチャーズ

問い合わせ

		
Nagomisyokudou0811@gmail.com	090-8669-0452 (担当者) 渡邊和代	https://m.facebook.com/nagomi20190811/

NPO 法人熊本 YWCA

活動を始めるきっかけ/活動概要

30 年以上前より、生活用品や奨学金等を通じて留学生支援を行ってきっていたが、近年留学生の構成メンバーや家族の状況などが変化し、「モノ・カネ」ではない、人の交流や師弟への支援、中長期的な経済的支援の必要性などが目立つようになった。そこで、日本語を得意としない子どもたちの学習支援及び食事提供、食材等寄付品配布、そのほかイベントの紹介や必要に応じて福祉機関などにつなぐことができるよう、子ども食堂を始めることにした。

重点的に取り組んだこと/成果

- ・多様な文化圏の子どもたちが参加できる様に、食事は全てハラルにしている

留学生の子どもで日本の食事全体に不安を抱いている子どもは多く、言葉で説明してもつたわりにくい。まずは信頼関係を作りながら少しずつ食べられるものを増やして行くように取り組んだ。

- ・スタッフの基盤を整える

毎週行う活動のため、スタッフは交代しながら無理なく関わられるように心がけた。

- ・勉強・遊び・食事の時間のメリハリ

言葉かけ等を行いながら時間をかけて慣れていってもらった。子どもの成長が著しくスタッフは感嘆の声をあげることがしばしばあった。

課題/解決に向けての取り組み

- ・参加者の拡大

依然として地域で暮らす子どもへの案内が届いていないと感じる。小学校や自治会などにつながって、必要としている子どもへの支援を広げていきたい。

- ・財政の安定化

子どもからの参加費での運営は望めないため、助成金や寄付金が頼りの活動になる。居場所を守るためのファンドレイジングが課題である。

今後の展開

- ・スタッフの裾野を広げたい

多様な子どもに向き合うため、また無理なく活動が継続できるように、スタッフの厚みを増やしたい

連携団体

フードバンク、逢桜の里、社会福祉法人熊本県ひとり親家庭福祉協議会、黒髪校区自治会など

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
Kumamoto.ywca@gmail.com	090-9598-3557	https://www.facebook.com/ywcakumamoto/